

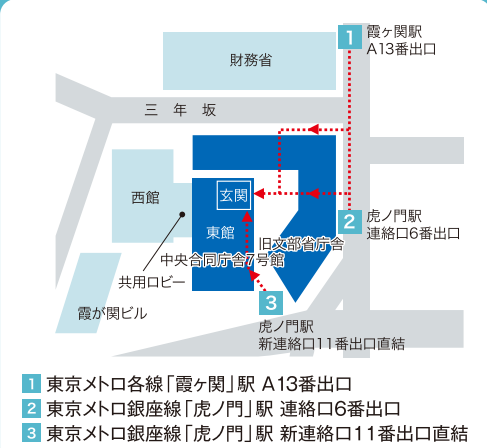
文部科学省・スポーツ庁・文化庁(東京)



文化庁(京都)



〒602-8959 京都府京都市上京区下長者町通
 新町西入藪之内町85番4
 TEL 075-451-4111(代表)



〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2
 TEL 03-5253-4111(代表)

採用に関する問合せ

TEL 03-5253-4111(代表)

事務系

大臣官房人事課任用班任用調整係(内線2133)
 E-mail: mext-s@mext.go.jp

技術系

大臣官房人事課任用班任用第二係(内線3426)
 E-mail: saiyou-tech@mext.go.jp

施設系

大臣官房文教施設企画・防災部
 施設企画課総務係(内線2523)
 E-mail: sisetu-somu@mext.go.jp



人間青山



藤原章夫

文部科学事務次官

一投一念



窪久志

スポーツ庁長官

我以外皆我郎



都倉俊一

文化庁長官

TOP MESSAGE

文部科学省で働くことは豊かな人生の実現に貢献すること

Well-beingという言葉が最近よく聞かれるようになりました。「幸福」と簡単に翻訳されることもありますが、より詳細に言えば「心身ともに健康であり社会的にも満たされている状態であること」というのがその語義です。OECDにおいても昨今Well-beingが各国比較の指標として取り上げられていますが、成熟したこれからの社会においては、経済的な豊かさだけでなく、より幅広い視点から幸福を考えていく必要があるという意識の変化の表れであると思います。そうした中で、文部科学省は、まさに一人一人のWell-beingを実現していくうえで、これまで以上に一層重要な役割を担っていると感じています。教育振興基本計画においてもWell-beingを教育政策目標として明確に位置付けました。文部科学省の所管する分野は幅が広く、教育、科学技術・学術、スポーツ、文化にわたりますが、どの分野も私たちが豊かな人生を送っていく上で欠かせないものです。教育機会の保障やグローバルに活躍できる人材の育成、イノベーションを通じた新たな社会基盤の創出のほか、スポーツや文化の力による感動体験など、文部科学省はそうしたツールの宝庫です。霞が関は仕事が大変というイメージを持たれていますが、その時は苦しいと思う仕事も良き仲間と共に分かち合えば楽しい仕事に変えられます。苦勞して実現した仕事こそ後で振り返って記憶に残る仕事です。是非皆さんも私たちと一緒に、より良い未来に向かって、豊かな人生の実現に貢献する仕事に携わってみませんか。文部科学省ではいつでもそうした思いのある方々を歓迎します。

スポーツの力で、より良い未来を

皆さんにとってスポーツはどのような意味を持つでしょうか。実際に行うことで楽しさを感じるもの、極限に挑戦するアスリートのひたむきな姿や試合を見て、感動や勇気を貰うものなど、スポーツの内在的な価値を思い浮かべる方が多いかと思います。しかし、スポーツの持つ価値は想像以上に多様なものです。スポーツを行う場を中心とした新たなまちづくりやスポーツ×DXによる新たなビジネスモデルの創出、個々人に合わせた運動・スポーツの実施による国民のライフパフォーマンスの向上など、スポーツの持つ多様な価値は「人間」、「社会」を大きく成長させる可能性を秘めています。スポーツ庁は、こうしたスポーツの持つ多様な価値を更に広げ、より良い「未来」を実現するための挑戦を続けています。社会が絶えず変化し続け、課題が複雑化・多様化する中、様々な角度から課題にアプローチできるスポーツに求められる役割や期待も、今後さらに高まると感じています。柔軟な発想や強い志を持つ皆さんと共に、この挑戦に取り組むことができたら嬉しく思います。

新たな文化行政の本格化

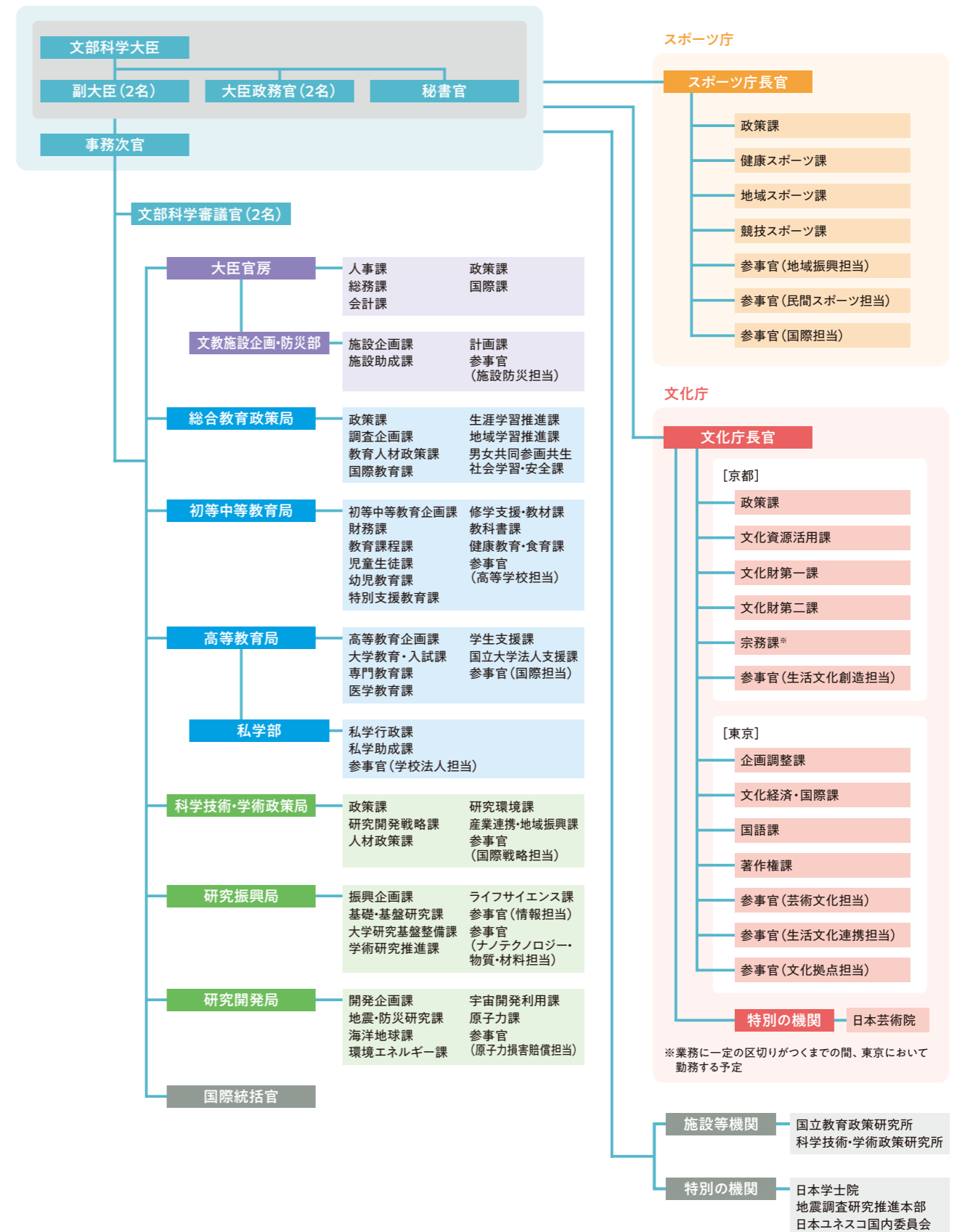
我が国には、歴史的な文化財から、ポップカルチャーまで豊かで多様な文化芸術資源が存在しています。文化庁は、令和5年3月から京都での業務を開始しており、京都の地からこれらの資源を活かした新たな文化行政を本格化させていきます。特に、伝統文化を活かして全国各地における地方創生につなげていくような施策、アートと音楽フェスの融合的取組の本格展開、国際的に活躍するアーティストの育成とプロデュース、世界的な賞の創設等、官民で強力で連携して文化芸術のグローバル展開を一段高いレベルで進めていきます。また、ポストコロナの時代において、人々の心の栄養となる文化芸術の意義や価値を世界に先駆けて示していくという強い思いで、文化財の強靱化、文化施設の機能強化といった施策を一層推進していきます。柔軟な発想や希望と意欲を持つ皆さんと共に文化芸術立国の新たなステージを目指して、一緒に取り組んでいくことを心から楽しみにしています。

「人」と「知」の力で、
我が国の未来を創造する。

CONTENTS

- TOP MESSAGE P.1
- 目次 P.3
- 組織図 P.4
- MISSION 文部科学省のミッション P.5
- STAFF INTERVIEW
- 1 総合教育政策局 P.7
- 2 初等中等教育局 P.9
- 3 高等教育局 P.11
- 4 科学技術・学術政策局 P.13
- 5 研究振興局 P.15
- 6 研究開発局 P.17
- 7 スポーツ庁 P.19
- 8 文化庁 P.21
- 9 大臣官房 P.23
- 10 文教施設企画・防災部 P.24
- クロストーク P.25
- キャリアパス 出向制度 P.27
- ワークライフバランス P.31
- 一日の流れ P.33
- 一年目職員からのメッセージ P.35
- 若手職員のアンケート P.37
- 文部科学省職員研修体系 P.38
- 採用関係 Q&A P.39
- 採用情報 P.40

(令和5年4月1日現在)



MISSION

文部科学省のミッション

未来を「育む」。

教育、科学技術・学術、スポーツ、文化の振興を
未来への先行投資と位置付け、これを通じ、
「教育・文化立国」と「科学技術創造立国」を実現する。



4分野の使命

E DUCATION

教育

全ての人々が持つ可能性を開花させることで、
一人一人が活躍し、豊かで安心して暮らせる
社会の実現を目指します。

S CIENCE & T ECHNOLOGY

科学技術・学術

将来にわたる持続的な成長と社会の発展の
実現に向けた、科学技術・イノベーション政策を
推進します。

S PORTS

スポーツ

国民の成熟した文化としてスポーツを一層
根付かせ、人々がスポーツの力で輝き、前向きで
活力ある社会と絆の強い世界を創ります。

C ULTURE

文化

優れた芸術文化の振興を図るとともに、我が国
固有の伝統文化を継承・発展させることにより、
文化による心豊かな社会を実現します。

総合教育政策局

学校教育・社会教育を通じた教育政策全体を総合的・横断的に推進し、生涯学習の理念に基づく社会の実現を目指す

総合教育政策局
教育人材政策課改革推進係

河合 徹也

Kawai Tetsuya

令和 2 年 入省（行政）
令和 2 年 4 月 文部科学省大臣官房総務課
審議班
令和 4 年 4 月 同 総合教育政策局教育人材政策課
教員免許企画室
令和 5 年 4 月 現職



十分な指導体制の確保に向けて

仕事の紹介

教師はどの時代においても公教育の要であり、子供たちの人生を変える存在であり、子供たちに寄り添いながらその成長を実感することができる、他では得難い経験ができる魅力的な職業であると考えています。そのため教育人材政策課としても、教職が安心して目指せる魅力あるものとなるよう取り組んでいます。

その中で、私が所属する係では、教師需要に応えるための「なり手の確保」に向けた取組と、子供たちがより質の高い教育を受けるための「教師志願者の増加」に向けた取組、両方の施策



教師の魅力発信イベントの様子

に取り組んでいます。具体的には、「なり手の確保」として、教育委員会、大学と連携した、教師の魅力を発信するイベントや、教職に就いていない外部人材の発掘支援、「教師志願者の増加」として、各教育委員会が実施する教員採用選考試験の工夫改善を促進するため、試験自体の在り方の検討や教育委員会の負担軽減について、各教育委員会、大学と意見交換を行い、教師志願者の増加に向けた取組を進めています。



教員資格認定試験ポスター

文部科学省で働く魅力

文部科学省が担う教育分野は、他省庁と異なり人づくりです。進めている施策が全国の学校現場、ひいては未来の日本の教育に影響を与えかねないと考え、大きな責任とともにやりがいを感じます。特に、業務の一つである中央教育審議会の運営は、日本の教育の礎を築くものであり、他にはない緊張感をもって進めています。

業務や研修の一環で学校現場を訪れることもありますが、取り組む施策が目前にいる子供たちにとって良いものなのかと考えると、より業務の重要性を実感することができます。

他省庁の取組も同様に日本の未来を創るものではありませんが、人づくり・人を育てることは、文部科学省でしか味わえない魅力だと感じます。



学校現場での講演の様子

志望動機と現在

児童虐待やいじめの報道を見聞きし、行政の立場から児童虐待やいじめの減少、防止に尽力したいと考えていました。また、私自身、スポーツと共にあった学生生活を過ごしていたため、スポーツ振興にも興味があったところ、どちらの業務にも携わることができる文部科学省を志望しました。

現在携わっている教師の確保、質の向上を目的とした日々の業務は、子供たちにとってより良い学校生活を送る環境を作りたい、という志望動機ととても密接した業務となっています。実施する施策は教育現場や子供たちの学習環境にもつながっていくものであり、その分責任は重大ですが、やりがいをもって日々の業務に臨んでいます。

志望者へのメッセージ

進路を考えるにあたり、自分自身にとって何が一番の関心事項なのか、得意分野なのか、悩まれている方もいらっしゃるかと思います。文部科学省が担う分野は、「教育」「科学技術・学術」「スポーツ」「文化」という4つの分野に大きく分かれており、各分野の中でも専門とする事項は多岐にわたります。関心事項を絞り

1週間のスケジュール

月 中央教育審議会の運営調整

次回の審議会に向け、資料の作成、運営面で委員と打合せを行い、審議会が円滑に進むよう調整を行います。

火 調査の公表に向けた確認

例年公表している調査結果について、データの集計、精査を行います。回答元の教育委員会と、過去のデータを踏まえながら回答の確認作業も行います。報道につながる調査も含まれるため、繰り返し確認作業を行います。

水 会議の運営調整

教職の魅力発信イベントの開催に向け、教育委員会や大学から取組についてお話を伺います。政務三役にもご出席いただくこともあるため、密に運営調整を行い、YouTube等へのライブ配信に向けたテレビ制作業者との打合せも行います。

木 新規取組に向けた打合せ

今後の取組に向け、上司を含めて意見交換を行います。各々の意見を出し合うことで内容の充実を図ります。

金 委託事業についての意見交換

一部の教育委員会に対し、教員採用選考試験問題の提供をするため、問題や回答の精査、方針について、委託業者や教育委員会と意見交換を行います。受験生の目線に立った問題作成や教育委員会への提供方法について、細かく認識を合わせます。

切ることがないことは、将来の選択肢を広げる上で、とても良かったと自分自身も感じています。また、皆さんの持つ強みを、様々な分野で発揮することができる職場だと思います。

様々な分野に携わることもできる文部科学省が、皆さんが進路を考える上で選択肢の一つになれば幸いです。

初等中等 教育局

全ての子どもたちに「生きる力」を育む教育を実施するとともに、幼稚園から高校の教育水準の維持・向上を図る



初等中等教育局
教育課程課教育課程第二係

足立 拓也

Adachi Takuya

平成 30 年 入省（行政）
平成 30 年 4 月 文部科学省大臣官房
総務課審議班
令和 2 年 4 月 文化庁著作権課
令和 4 年 4 月 現職

理数好きな子供と科学技術人材を育成するために

仕事の紹介

文部科学省では、どこにいても一定の教育水準を確保するために、各学校が教育課程を編成する際の基準として「学習指導要領」を定めており、令和2年度より順次、現行の学習指導要領の下での学習が始まっています。教育課程課では、その学習指導要領が円滑かつ着実に実施されるよう周知を図ること等を通じて、子供たちの学びを支援する業務を担当しています。

その中で、私の所属する係では、算数・数学、理科に関する教育の改善・充実を通して、理数に興味関心を持つ子供を



指導主事連絡協議会の様子

増やすための取組や科学技術人材の育成のための取組等を行っています。例えば、学習指導要領の趣旨を踏まえて学校現場において適切に教育活動が行われるよう、各都道府県・政令指定都市等の担当者向けの「指導主事連絡協議会」等の運営業務や、将来社会を牽引する科学技術人材を育成するために「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業」に関する業務等を行っています。



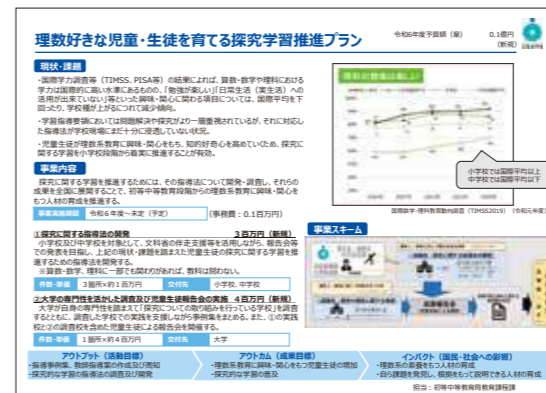
生徒研究発表会の様子

SSHパンフレット表紙

文部科学省で働く魅力

現代の社会で問題・課題となっていることに対して、スピード感を持ち解決策を打ち出せることが一つの魅力だと思います。例えば、国際学力調査等において、算数・数学や理科における学力は国際的に高い水準にあるものの、興味関心等に関する項目は、国際平均を下回っており、改善のための検討が必要であるという結果が出たことを踏まえて、理数好きな子供を増やすために令和6年度から「理数好きな児童・生徒を育てる探究学習推進プラン」という新たな事業を実施します。

また、文部科学省は現場から離れているためなかなか現場の声が届かないのではないかと考える方もいると思います。実際には、学校視察に行ったり、学校の担当者同士の交流会に参加し先生方と意見交換をするなど、現場の声を聞き、それを踏まえて施策の方向性を検討するなど、現場の困りごとに耳を傾けながら施策を推進しています。



理数好きな児童・生徒を育てる探究学習推進プラン

志望動機と現在

誰もが夢や目標に向かって何事にも挑戦でき、失敗したとしても再チャレンジできるような環境づくりに携わりたいという思いを持ち、就職活動をしていました。そして、文部科学省は、教育、科学技術・学術、スポーツ、文化といった分野を所掌しており、夢や目標の達成に向かって前向きに頑張っている方々をサポートできるツールを多く持つ省庁だと考え志望しました。現在携わっている理数教育の充実に関する業務は、理数に興味関心を持つ子供を増やし、科学技術人材として将来活躍したいと考える子供たちをサポートすることを目的としており、入省当初の思いを忘れないようにしながら前向きに日々の業務に取り組んでいます。

志望者へのメッセージ

文部科学省は様々な分野を所掌している省庁ですので、興味のある分野が1つでもあれば就職先の候補の1つとして検討してほしいと思います。私は、教育とスポーツに特に興味があり文部科学省に入省しましたが、著作権に関する担当になってからは文化にも興味を持つようになるなど、視野を広げることができました。また、第一子が誕生した際に、職場の上

スーパーサイエンス ハイスクール(SSH)事業の 年間スケジュール

1 SSH生徒研究発表会の準備・開催 (2023年4月~8月)

毎年8月に、SSHに指定されている学校の代表生徒が集結し、日頃の課題研究の成果を発表する会を開催しています。そこに向けて、科学技術・学術政策局や国立研究開発法人科学技術振興機構と連携しながら準備をします。

2 SSH中間評価の実施 (2023年9月~10月)

SSHに指定されて3年目の学校について、外部有識者による評価を行い、その時点における研究開発等の内容を各学校において見直す機会として実施しています。

3 SSH新規採択校の公募・審査 (2023年10月~2024年2月)

公募に当たっては、学校や教育委員会等に対して公募説明会を開催し、申請に当たっての留意事項等を周知しています。また、新規採択校を選定するために、学校等から提出のあった申請書類を基に、外部有識者によるヒアリングや書面による審査を行います。

4 SSH新規採択校の公表 (2024年3月)

4月からSSHとしての教育活動が実施できるよう、どの学校を採択するか外部有識者に決定いただき、3月中下旬に学校等に対して結果を公表します。

司や同僚にご理解・ご協力をいただき、3ヶ月間の育休をいただきました。霞ヶ関は働き方改革が進んでいない印象をお持ちの方もいると思いますが、文部科学省の働き方はそのようなイメージとは変わりつつあります。

少しでも文部科学省について興味を持っていただき、文部科学省を1つの志望先としていただけたら嬉しいです。

高等教育局

大学・高専等に対する支援や高度専門人材の養成、学生の修学支援などを通じて、高等教育の振興を推進

高等教育局
私学部参事官(学校法人担当) 付
学校法人経営指導室経営指導第二係主任

山本 悠貴
Yamamoto Yuki

平成 29年 入省(行政)
平成 29年 4月 文部科学省大臣官房
会計課総括予算班
平成 31年 4月 同 大臣官房会計課総務班
令和 元年 10月 スポーツ庁競技スポーツ課
令和 4年 4月 同 高等教育局私学部
参事官(学校法人担当) 付
令和 5年 10月 現職

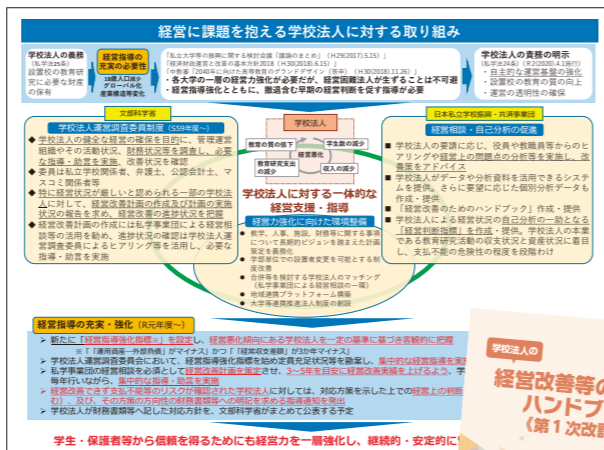


学校法人の経営改善・経営力強化に向けて

仕事の紹介

18歳人口の減少等を背景として、私立大学等を設置する学校法人の経営環境は厳しい状況になりつつあります。そのような中で、各学校法人には経営基盤の一層の強化や、公共性の観点からの適正な運営が求められており、私が所属する学校法人経営指導室では、学校法人の経営改善や経営力強化、管理運営上の課題解決に向けた指導・助言を行っています。

その中で、私は経営状況が悪化傾向にある学校法人に対する経営指導を主に担当しています。特に経営状況が厳しい法人に対しては、経営改善に向けた計画の作成を求め、日本私立学校振興・共済事業団と連携しつつ、外部有識者を交えたヒアリングで改善状況や計画の実施状況を確認しています。客観的な視点から法人の経営状況を分析し、課題や問題点を指摘することは簡単なことではありませんが、それが私立大学等の教育研究の質向上や学生保護につながるため、責任感を持って取り組んでいます。



経営に課題を抱える学校法人に対する取組

日本私立学校振興・共済事業団「学校法人の経営改善等のためのハンドブック《第1次改訂版》」より掲載

文部科学省で働く魅力

文部科学省は教育、科学技術・学術、スポーツ、文化と幅広い分野を扱いますが、いずれも未来や充実した生活への礎となるものであり、それらに関する全国横断的な取組や方針策定、大規模なイベント等に携われることは大きな魅力と感じています。これまでどの部署においても印象に残っている仕事がありますが、その中でも特に、スポーツ庁で東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた業務の一端を担えたことは、貴重な経験でした。

現部署では、学校法人の理事長など、私立学校における様々な分野の第一人者の方々と仕事をする機会に恵まれています。また、これまで所属してきた部署には、民間や専門的知見を有する関係機関等からの出向者の方等も在籍していました。そのような方々から日々新たな知識を習得することで自身の成長を実感しており、仕事のやりがいにもつながっています。



打合せの様子

志望動機と現在

幼い頃からスポーツや文化芸術活動に取り組んできたことで、様々な経験や学びを得ることができ、人生がより豊かになったと考えています。同じような経験をより多くの人にしてもらいたいと思い、国全体の奉仕者としての立場で、それらに関する環境の構築に携わりたいと考え、文部科学省を志望しました。

大臣官房での業務を通じて、文部科学省が担う分野全体を広い視点で見た後、関心があったスポーツ分野に携わらせていただき、志望当時の希望が叶った一方で、経験不足も実感したところ。入省以降、国の更なる発展に欠かせない高等教育分野に魅力を感じ、現在は学校法人の経営基盤の強化に取り組んでいます。

文部科学省が担う各分野は一見趣が異なりますが、国の未来を担っている点で結びつきや共通の課題があると感じており、分野を問わず様々な経験を積みながら、それぞれに貢献していきたいと考えています。

志望者へのメッセージ

入省案内をご覧いただいている方には、文部科学省を志望するか迷われている方もいるかと思いますが、実は私自身も文部科学省を志望するか迷っていたうちの一人でしたが、業務説明会や座談会で実際に働かれている方々のお話を伺う中で、どの方も国や子供の将来のために誇りと使命感を持ち、真剣に働かれていた姿に圧倒されたことが、

学校法人運営調査の年間スケジュール

学校法人の管理運営組織や財務状況の実態を調査し、必要な指導・助言を行っています。

- 調査・ヒアリング法人等の選定 (4月~7月)**
経営が悪化傾向にある法人や過年度から継続して指導中の法人を中心として、今年度の調査・ヒアリング等の対象法人を委員会にて選定します。
- 法人の経営状況の分析、論点整理 (7月~9月)**
法人の財務諸表や提出資料から、財務状況の分析や経営上の課題・問題点の抽出を行い、調査・ヒアリング等における論点や確認内容を整理します。
- 調査・ヒアリング等の実施 (9月~12月)**
整理した論点などに基づき、調査・ヒアリング等を実施します。私立大学等の現地に赴く場合もあれば、オンラインで行う場合もあり、現地に赴く場合は学生へのインタビュー等も行います。
- 報告書作成、指導事項等の伝達 (12月~3月)**
調査・ヒアリング等の結果から作成した報告書を基に、委員会にて指導事項等を審議し、決定した内容を法人へ伝達します。

志望の決め手のひとつになりました。文部科学省はこれからの社会を切り拓く上で重要な役割を担っており、一朝一夕ではいかないことばかりですが、国全体を見据えた立場から、未来に向けた課題に前向きに向き合うことができます。皆さんも国のより良い未来に向けて一緒に働いてみませんか。

科学技術・ 学術政策局

科学技術・学術に関する
基本的な政策の企画・立案
や推進により、我が国の
研究力の向上を目指す

科学技術・学術政策局
参事官(国際戦略担当)付
国際交流戦略係

菊間 由佳

Kikuma Yuka

令和 2 年 入省(行政)
令和 2 年 4 月 文部科学省国際統括官付
令和 4 年 4 月 現職



平成 25 年 入省(電気・電子・情報)
平成 25 年 4 月 文部科学省生涯学習政策局参事官付
平成 25 年 7 月 同 生涯学習政策局情報教育課情報教育振興室
平成 26 年 4 月 同 生涯学習政策局情報教育課
平成 27 年 4 月 内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター
平成 27 年 7 月 文部科学省大臣官房政策課評価室
平成 29 年 4 月 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
経営企画部総括グループ
平成 30 年 9 月 内閣府政策統括官(原子力防災担当)付
参事官(地域防災・訓練担当)付主査付
令和 元年 7 月 同 政策統括官(原子力防災担当)付
参事官(地域防災担当)付主査付
令和 元年 10 月 同 政策統括官(原子力防災担当)付
参事官(地域防災担当)付主査
令和 2 年 8 月 同 政策統括官(原子力防災担当)付
参事官(総括担当)付主査
令和 3 年 4 月 文部科学省大臣官房会計課第二予算班第三係長
令和 5 年 4 月 現職



科学技術・学術政策局
人材政策課人材政策推進室
基礎人材推進第三係長

杉崎 太祐

Sugizaki Taisuke

変化の激しい世界における科学技術を通じた国際交流

未来を創る、君の手で。科学技術・イノベーションの世界へ、一緒に飛び込もう!

仕事の紹介

参事官(国際戦略担当)付は、科学技術の国際案件のとりまとめをしており、国際的な人材・研究ネットワークの強化、国際共同研究の推進、科学技術外交の推進、科学技術分野における経済安全保障の推進などを所掌しています。私はその中でも特に、欧州地域各国との科学技術協力について担当しています。科学技術を担当する省庁や大使館、研究支援機関など、様々な関係者の方たちと、相手国との科学技術協力の進め方について意見交換や議論をしています。また、国際会議やイベントに対応することもあります。

地政学的変化の影響もあり、日本は、国際共同研究の相手国として多くの国から高い期待を向けられており、欧州各国から様々な分野での協力打診や、各国要人の文部科学省幹部への表敬訪問依頼が来ます。協力が形になるように、また良好な関係性が今後も継続していくように、日々調整業務等に取り組んでいます。



デンマークとのバイ会談の様子



日 EU 科学技術協力合同委員会

志望動機と現在

学生時代に、海外で現地の子供たちに日本語や日本文化を教えるプログラムに参加していた経験から、日本語教育や国際交流、国際理解教育に興味を持ち、文部科学省を志望しました。

プログラムに参加していた当時は、言語や文化を通じて交流していましたが、現在の部署では、国際共同研究の促進や人的ネットワークの強化など科学技術を通じた国際交流を担当しています。気候変動等の環境問題や世界各地での紛争など、科学技術をめぐる国際的環境は大きな変化を迎えており、科学技術における国際活動を推進する重要性を、業務に取り組み中で実感しています。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、研究における国際交流・協力が困難となりましたが、オンラインも上手く活用しながら対面での交流も徐々に回復しています。ポストコロナでの協力関係の構築は、新しいことも多くあり、日々の業務の中で悩むことや苦勞することもありますが、責任感・達成感を感じながら業務ができる環境にやりがいを感じています。

年間スケジュール例 (2023年)

- 科学技術協力合同委員会への参加**
科学技術政策や科学技術協力の現状と今後の方向性について各国と議論を実施。外務省が会議の運営等を行います。文部科学省も科学技術担当省として議論に参加します。
2023年の開催(欧州):1月スイス、2月ドイツ、6月チェコ、11月英国、12月EU
- 国際会議、表敬訪問への対応(5月)**
G7サミット、関係閣僚会合が日本で開催され、来日した各国要人と文部科学大臣等との面会を調整しました。
- 科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)(10月)**
毎年京都で開催されるフォーラムに、世界中から科学者、政策決定者等が集まります。この機会に、各国要人や研究機関関係者等との会談やイベント等の調整を行います。

仕事の紹介

人材政策課では、科学技術・イノベーションを担う多様な人材の育成や活躍促進を図るため、博士後期課程学生を含む若手研究者に対する経済的な支援や、次代の科学技術・イノベーションを担う人材の育成、科学技術コミュニケーションの推進、女性研究者の活躍促進に向けた取組等を実施しています。

私は主に、将来の学術研究を担う優れた若手研究者を養成・確保するために創設された日本学術振興会(JSPS)特別研究員制度や、研究者等のキャリア形成を支援するため科学技術振興機構(JST)が運用している研究人材のためのキャリア支援ポータルサイト「JREC-IN Portal」に関する取組等に携わっています。

仕事においては、大学等の関係者や第一線で活躍する研究者と対話する機会も多く、現場での課題や国に求められていること等を直接伺うことができ、文部科学省ならではの取組を進めることができていると感じています。



JSPS特別研究員制度(PD、DC)募集ポスター



研究人材のキャリア支援ポータルサイト「JREC-IN Portal」リーフレット表紙

文部科学省で働く魅力

文部科学省は、教育や科学技術、スポーツ、文化等、幅広く多岐にわたる分野の仕事に携わることができる希少な省庁の一つだと思います。私がこれまでに仕事で関わってきた

分野だけでも、情報教育やセキュリティ、独立行政法人制度、医療研究、原子力防災、予算・会計、人材育成等、多種多様な分野に関する仕事に携わることができました。配属先が変わるごとに未知の世界に飛び込むような経験をし、知識を深める楽しさや新しい人々との出会いを体験でき、自分自身の視野がどんどん広がっていくのを感じています。

その一方で、国会対応や、事業の検討から予算要求や編成、執行といったプロセスのように、どの配属先でも共通する仕事もあり、これまで積み重ねてきた知識や経験などを活かすこともできます。

今後も、まだ携わったことがない分野にも積極的にチャレンジして、未知の世界に飛び込んでいきたいと思っています。

年間スケジュール例

事業の検討から予算要求や編成、執行まで

- 既存事業の見直しや新規事業の検討(2023年1月~5月)**
喫緊の課題や様々なステークホルダーからの要望、既存事業の執行状況等を踏まえ、次年度にどのような事業を実施するのか検討します。
- 概算要求(2023年6月~8月)**
次年度に実施したい事業について、事業内容や必要な予算を関係部局等とも調整し、概算要求として財務省へ提出します。
- 予算編成(2023年9月~12月)**
要求した予算について、その事業内容や予算の内訳などを財務省に説明、折衝を行い、年末に予算案として閣議決定されます。
- 国会審議・予算成立(2024年1月~3月)**
閣議決定された予算案は国会に提出され、審議を経て次年度予算が成立します。
- 事業の実施・執行(2024年4月~)**
成立した予算に基づいて事業を実施します。実施に際しては、効果的な事業の執行に努めています。

研究振興局

基礎研究をはじめとした研究開発の推進や大学研究基盤の整備、学術振興施策の推進を図る



研究振興局振興企画課奨励室
発明奨励・表彰係

藤本 童子

Fujimoto Touko

令和3年 入省(農学)
令和3年4月 文部科学省研究開発局
参事官(原子力損害賠償担当)付
令和4年4月 現職

表彰を通じて日本の研究力向上に寄与する

仕事の紹介

文部科学省では、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた方について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる研究者等の意欲の向上をはかることで、日本の科学技術水準の向上に寄与することを目的として、科学技術分野の文部科学大臣表彰を行っています。

振興企画課奨励室では、文部科学大臣表彰の受賞候補者の募集から受賞者の決定、表彰式の開催までの業務を1年かけて行っています。

文部科学大臣表彰には、毎年2,000件以上の応募があります。文部科学大臣表彰の受賞者は、文部科学省に設置された審査委員会における審査・選定を経て決定されます。奨励室では、審査委員に公平な審査を行っていただけるように文部科学大臣表彰へ提出された書類の確認作業や審査委員に審査いただく資料の作成、審査会議の運営等を行っています。



令和5年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 表彰式

文部科学省で働く魅力

文部科学省では、幅広い分野の研究を支援しているため、様々な研究に触れることができるのが魅力の一つだと思います。

現在所属している振興企画課奨励室では、文部科学大臣表彰への全国から様々な研究・開発等の応募をいただきます。応募書類からさまざまな分野の研究に触れることができ、とても楽しく仕事をしています。また、文部科学省には明るく前向きな仕事が多いことも魅力だと思います。現在携わっている表彰業務では、文部科学大臣表彰の受賞者をホームページで公表すると、受賞者の所属機関等のホームページで受賞者御本人のコメントを掲載いただくことがあります。受賞者の方のコメントから本賞を受賞したことをとても喜ばれていることがわかったときには、本表彰に携わってよかったとやりがいを感じます。



令和5年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 受賞冊子

志望動機と現在

私が文部科学省を志望した理由は2つあります。1つ目は、学生時代に研究室で研究活動をしている際に、研究者の雇用の不安定さや、研究費の不足等を見聞きしたことで、研究者の働く環境を良くしたいと思ったことです。2つ目は、私は研究室や学会等で研究者の方から楽しそうにご自身の研究の話聞くことが好きで、文部科学省であれば、研究者の方と関わる仕事ができると考え、文部科学省を志望しました。

現在は、文部科学大臣表彰業務に携わることで、全国からたくさんの方の研究内容が集まり、研究者の研究内容に触れることができとても楽しいです。また、応募書類の審査にあたって、研究者の方から意見をいただくこともあり、研究者の方と関わりがある仕事をする事ができています。

志望者へのメッセージ

入省前、文部科学省に関心を持っていたものの、私に仕事が務まるのかとても不安な気持ちがありました。入省1年目の頃、学生と仕事で環境が大きく異なることや仕事の責任の重さから、「働くって大変だな」と思ったことを覚えています。私は上司や同僚に恵まれ、どんなに小さなことでもわからないことや確認をした際には嫌な顔一つせずに教えてもらい、

助けてもらいながら、現在まで様々な経験を積むことができました。

文部科学省では様々な分野を所掌しています。入省してからも、こんな部署があったのか、こんな仕事もあるんだ、と発見が多く、飽きることがないところがいいところだと思います。みなさんの選択肢の一つに文部科学省を入れていただけると幸いです。

年間スケジュール

文部科学大臣表彰受賞候補者の募集から
文部科学大臣表彰表彰式の開催まで

1 推薦要領の見直し・推薦依頼
(4月~5月)

都道府県、国公私立大学、学協会等の推薦機関へ受賞候補者の推薦依頼を行います。少しでも多くの機関から推薦していただけるよう、前年度の応募期間中の問い合わせ内容等を踏まえて賞の推薦要件や記載要領等が記載されている推薦要領の見直しを行い、推薦機関にとってわかりやすい推薦要領の作成を心がけています。推薦依頼後は、推薦に関する問い合わせ等に対応します。

2 書類審査
(8月~12月頃)

7月中旬から推薦依頼を締め切ります。締切後は、公平な審査が行われるよう1件1件書類の形式的な確認を行い、審査委員に審査いただくための資料の作成や審査依頼を行います。

3 受賞者の審査・選定
(1月~2月頃)

審査委員会を複数回開催し、受賞者を審査・選定します。

4 受賞者の決定・表彰式
(3月~4月)

文部科学大臣表彰の受賞者決定後、受賞者を4月上旬に発表し、科学技術週間中に表彰式を行います。表彰式では、大臣から代表受賞者へ直接賞状が授与されます。

研究開発局

宇宙、原子力、海洋や環境エネルギー、フュージョンエネルギー、地震・火山・防災等の国家規模の研究開発を推進する

研究開発局
環境エネルギー課総括係長

戸辺 弘亮

Tobe Kosuke

平成 26年 入省（物理）
平成 26年 4月 文部科学省研究開発局開発企画課
平成 27年 6月 同 研究開発局地震・防災研究課
平成 29年 5月 同 研究開発局原子力課
平成 30年 7月 同 研究開発局原子力課専門職
平成 31年 4月 同 科学技術・学術政策局研究開発基盤課
量子研究推進室機構・総括係長
令和 3年 8月 同 研究開発局原子力課専門職（原子力留学）
令和 4年 7月 同 研究開発局環境エネルギー課専門職
令和 5年 6月 現職



新たな時代の社会変革「グリーントランスフォーメーション(GX)」

仕事の紹介

我が国は、2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにする「カーボンニュートラル(CN)」を達成することを宣言しました。これまでCNへの貢献は企業や個人のコストを含む負担を伴う取組が多かったと言えます。グリーントランスフォーメーション(GX)とは、温室効果ガスの排出量削減を経済成長の阻害要因ではなく成長の機会ととらえ、排出削減



FCEV（燃料電池自動車）MIRAI

と経済成長の両立の実現を目指していく考えです。環境エネルギー課では、グリーントランスフォーメーションに資する半導体、蓄電池、水素等の革新的技術のほか、その政策の基礎と

なる気候変動予測に関する研究開発の支援等を行っています。

私は、環境エネルギー課の総括係として主に課全体の研究開発等に関わる予算の調整や国会対応等の業務を担当するほか、GX技術担当として水素に関わる研究開発事業の進捗に関わる管理等の業務を行っています。総括という日々の課の全体を俯瞰する視点に加え、事業担当という個々の技術に着目したミクロな視点の両方が求められます。



文部科学副大臣視察への随員（筆者左から2人目）

文部科学省で働く魅力

文部科学省は、教育であれ科学技術であれ「未来への投資」に携わる省庁です。事業を立ち上げる際には、10年後にどのような未来になっているか、その絵姿をしっかりと描き、そこまでのロードマップを研究開発方針に反映させなければなりません。私は、水素に関する研究開発プロジェクトを文部科学省で初めて立ち上げました。研究開発方針の策定にあたってはアカデミアや産業界からたくさんの意見をヒアリングしました。また、10年後には我が国が水素製造や燃料電池分野で世界をけん引しているビジョンを浮かべ、「もしかしら、ここで決めた方針によって10年後世界がガラッと変わっているかもしれない、いや、きっと変わっている」、そんな思い



水素事業に関する講演会にて

で具体的な道筋を描いたつもりです。こうした政府の方針や計画等、今後の日本の未来を左右するダイナミックな政策の意思決定に携われることが、政策官庁である文部科学省の魅力であり特徴であると感じています。

志望動機と現在

私は、大学院の専攻が宇宙物理学という分野でアインシュタインの一般相対論を用いて理論研究を行っていました。そんなところから「基礎研究の振興や学術に関わる人材の育成」に携わりたいと考え文部科学省の門をたたきました。

役所では大体2年程度で異動します。私は、これまで幸運にも防災、原子力、量子、そして環境エネルギーという様々な分野での研究の最前線やそこに関わる研究者と触れ合うことができました。どの分野においても必要な資源や人材は足りておらず、文部科学省が取り組まなければならない課題はたくさんあると感じ、現在では、その時その時に携わった領域の振興や人材育成について精一杯取り組むことを心がけています。

今後のビジョン、
やってみたいこと

私の将来の夢、いや、役人人生での夢は「GAFAMのような世界をけん引するトップ企業を生み出す」ことです。この夢を叶えるために文部科学省でできることはたくさんあります。種となりうるような様々な分野での研究開発の支援、スタートアップ等の新興企業の立ち上げに関わる支援、将来の一流人材を生み出すための博士課程等学生への支援等の科

学技術、教育の様々な観点で貢献できます。スポーツや文化も含め文部科学省の取組は全て「未来への投資」そのものです。それはすぐには芽が出ないかもしれませんが未来を想い、突き進み続けることこそが重要であり楽しみでもあります。私たちと共に理想とする未来へ向かって一緒に突き進むことができる仲間をお待ちしています。

具体的な業務のスケジュール

革新的GX技術創出事業(GteX)(R5新規事業)立ち上げまでの道のり

- 1 研究開発の方向性の検討 (2022年2月~6月)**
カーボンニュートラルに関する国内外の政策・産業動向等を踏まえて特に重点的に検討すべき領域について、有識者による検討会を開き議論します。
- 2 予算要求 (2022年7月~12月)**
有識者の議論を経て研究開発の骨格を定め、概算の経費に落とし込んだうえで財務省に予算を要求します。
- 3 事業に関わる基本方針、研究開発方針の策定 (2022年12月~2023年3月)**
確保した予算を念頭に、今後10年間で研究開発の達成目標やその道筋、事業の実施方針等を様々な分野の有識者や関係省庁を交えて議論します。
- 4 資金配分機関による公募・審査 (2023年5月~9月)**
文部科学省が作成した基本方針・研究開発方針を基に資金配分機関である科学技術振興機構が公募要領を作成し公募を行い、その後審査します。
- 5 研究開発開始 (2023年10月)**
初めの構想から1年半以上たってやっと研究開発が開始します。長い道のりでしたが、むしろここはスタート地点です。
- 6 研究進捗の管理、関係省庁との連携 (2023年10月~)**
研究開発成果が予定通り進捗しているかの確認、関係省庁と出口をどのようにつなげていくかの議論を行います。研究開発成果がしっかりと国民に還元されるようしっかりと進めていかなければなりません。

スポーツ庁

スポーツを通じて「国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む」ことができる社会の実現を目指す



スポーツ庁競技スポーツ課整備係

唐澤 杏子

Karasawa Kyoko

平成 30年 入省（行政）
平成 30年 4月 文部科学省初等中等教育局
教科書課
平成 31年 4月 同 総合教育政策局政策課
令和 2年 4月 同 大臣官房人事課計画調整班
令和 4年 4月 現職

世界で活躍するアスリートを支える

仕事の紹介

競技スポーツ課では、オリンピック・パラリンピック競技大会をはじめとする国際競技大会等で活躍するアスリートの育成・強化のための様々な支援を行っています。その中でも私が担当する整備係では、トップアスリートが集中的・継続的にトレーニング・強化活動を行うための中核拠点であるナショナルトレーニングセンター（NTC）及びスポーツ医・科学、情報等による研究、支援を実施する国立スポーツ科学センター（JISS）からなるハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）に関わる業務と、HPSCでは整備が困難なオリンピック・パラリンピック競技等について、全国の既存施設を競技別NTCに指定し、アスリートがより効果的なトレーニング・強化活動を実施できるような環境整備を担う業務に取り組んでいます。全国の競技別NTCを「NTC競技別強化拠点」と呼んでおり、令和5年4月1日時点で全国に44施設あります。



NTC 競技別強化拠点指定施設一覧（令和5年4月時点）



村上市スケートパーク



大倉山ジャンプ競技場

文部科学省で働く魅力

私は1、2年目で教育分野に関わる「教師」、「生徒」を支える業務に、3、4年目では大臣官房人事課で文部科学省に勤務する「職員」を支える業務に携わり、現在「アスリート」を支える業務を担当しています。教師として活躍する友人や研修でお世話になった現役の先生方から「この政策はありがたかった」、「こういう取組をやってもらえたら助かる」といった意見をもらったことや、アスリートとして活躍する友人から、私の現在担当している業務について「この事業があるからこそ、日々トップレベルの練習ができているので本当に感謝している」と言ってもらったこともあります。そのような言葉をもらったことで日々のモチベーションが上がり、やりがいを感じながら仕事に取り組んでいます。教育・スポーツ分野に加え、文部科学省には「研究者」を支える科学技術・学術分野、「文化人」を支える文化庁もあります。様々な分野の「人」を支える業務に携わることができるのは文部科学省だからこそだと思います。



大会視察時に課内メンバー、現地担当者と

志望動機と現在

私自身、体を動かすことがとても好きで、今でも休日には趣味でスポーツをしています。大学では4年間、生涯スポーツに関わる分野を学んでいたためスポーツ行政に興味を持ち、スポーツ庁の業務に関心があったことから、文部科学省を志望しました。幸い、入省5年目でスポーツ分野に関わることができ、日々スポーツの前向きな面に触れつつも、実際業務に携わると、多くの課題を抱えていることを実感します。「仕事とは、課題を解決することである」と就職活動中に聞いたことがありますが、本当にその通りだと思いながら様々な課題解決に取り組んでいます。課題解決の先にあるスポーツ界のさらなる発展に少しでも携われたらと思い、日々奮闘しています。

志望者へのメッセージ

文部科学省では、若手職員の活躍機会を増やそうという動きが活発化しています。また最近では、コロナ感染拡大の時期を経たことで働き方が多様化した背景等から、「業務改善」が推奨されています。さらに、文部科学省で導入されている「Slack」では、毎日色々な情報が共有されており、若手も含めて知見や情報を気軽に発信できる機能だと感じます。

NTC 競技別強化拠点
機能強化事業の
年間スケジュール

- 1 委託契約締結（4月）**
委託先を決定し、1年間の事業計画を作成します。
- 2 問合せ対応（5月～6月）**
事業計画の内容についての問合せ、相談対応を行います。状況に応じて、オンライン打合せも実施します。
- 3 視察・意見交換（7月～12月）**
全国の拠点施設の視察や、施設担当者との意見交換を行い、現場の声を聞きながら課題解決に取り組みます。施設を実際に視察することで、資料からは読み取れない利点・課題が見えてきます。
- 4 額の確定（3月）**
事業が完了すると、完了報告書が提出されます。計画通りに事業が実施されたかチェックします。

味の素ナショナルトレーニングセンター
屋内トレーニングセンター・イースト

文化庁

日本の文化芸術を世界に、そして次の世代へと伝えていく

文化庁著作権課
国際著作権室海外協力係

藤原 七海

Fujiwara Nanami

令和 2 年 入省（行政）
令和 2 年 4 月 文部科学省研究開発局
開発企画課
令和 4 年 4 月 現職

日本コンテンツの権利を守るために

仕事の紹介

著作権課では、著作権法・その他関連法令の整備、著作権教育や普及啓発、海外における著作権侵害（海賊版）対策、国際的なルール作りのための議論への参画などを行っています。

私が所属する海外協力係では、近年のデジタル化・ネットワーク化の進展により、著作権を侵害したコンテンツが国境を



第17回日韓著作権協議の様子

越えて広がってしまうという事態に対応すべく、海外、特にアジア・太平洋地域の途上国における著作権保護の推進のための著作権制度整備支援と海賊版対策の大きく2つの事業を実施しています。具体的には、日本コンテンツの流通が多い国の外国政府と政府間協議の実施や、国内外に向けた著作権の普及啓発活動、国内権利者の方の権利行使の手助けをするため情報提供等を実施しています。海賊版対策は関係省庁や民間団体等との協働した取組が必須であり、様々な関係者と連携をしながら業務を進めています。



海賊版による著作権侵害の相談窓口ポスター

困難を乗り越えて得たこと

私がこれまでで一番困難だった業務は、令和4年度に開設した海賊版による著作権侵害の相談窓口の周知活動です。本相談窓口は主に個人クリエイターを対象としていましたが、企業ではなく個人に向けて周知を行うのが国際著作権室として初めてのことで、全てが手探り状態でのスタートとなりました。

対企業とは違うアプローチをしなければならぬと考え、関係者からの協力も得ながら上司と案を出し合い周知計画を作成して行きました。SNS等での周知はもちろん、関係団体と協働したニコニコ生放送での特別番組の実施や、文化庁として初めてとなるCOMITIA（自主制作漫画誌展示即売会）へブース出展も行いました。

前例がなく模索しながらの作業となったため困難な点も多かったですが、入省3年目（当時）の私の意見もどんどん取り込んでもらえて、自分の意見が国の事業として反映されていくことの楽しさを学びました。他の業務においても既存の概念にとらわれず、自分なりの見解やアイデアはたとえ小さなことでも積極的に提案するようにしています。



COMITIA146での文化庁ブース

志望動機と現在

私は大学・大学院時代に舞踊教育学を専攻しており、芸術を活用した創造性を育む教育に関心があったことから、文化にも教育にもどちらにも携わることができる文部科学省への入省を志望しました。

現在は、著作権課の中でも主に海外の方々と関わる業務に携わっています。入省前は、国際的な業務に携わるとは想像していませんでしたが、文化の違う外国の方とのコミュニケーションの難しさや、国を越えて協力できることの素晴らしさ等をもっと学び、国際的な業務へ携わることの面白さを感じるようになりました。

文部科学省では、私が入省前に考えていたよりも多くの分野に携わる機会があり、日々自分の知見や興味関心が広がっていくことに楽しさを感じています。

志望者へのメッセージ

私は入省前、国の業務は規模が大きすぎて自分の考えが入る余地なんてないのではないかと考えていました。実際に業務を行ってみると実は真逆で、若手の意見も通りやすく、積極的に上司に意見を言える環境が整っています。だからこそ、まず自分の考えを提示しないと業務は始まりません。現在の課題や事業の問題点を自分なりに分析し、実行計画案を作

海賊版対策事業（海外における著作権普及啓発）の年間スケジュール

1 方針の協議・委託契約締結（2023年4月～6月）

昨年度の事業の結果を踏まえ、事業内容を検討・計画します。委託事業者を選定し、委託事業者からの事業提案を元に協議を重ねながら事業計画を作成します。

2 普及教材作成（2023年7月～11月）

海外向けに、著作権を守ることの重要性について学ぶことができる教材を作成します。この際、多く国で使用できる内容となるように留意します。

3 教材の展開（2023年12月～2024年2月）

海外でのジャパンコンテンツイベント等にブースを出展し、作成した教材を展示・配布します。また、海外の政府機関に教材を提供して自国での活用を促したり、作成した教材をSNS等で全世界に展開したりします。



マレーシア Comic Fiesta 2023での文化庁ブース

4 結果とりまとめ（2024年3月）

事業の結果を振り返り、反省点等を検討し取りまとめを行い、翌年度の事業方針に盛り込みます。

成した後、係内で協議を重ねながら検討し、自分たちの手で実行していきます。もちろん責任も大きく、プレッシャーを感じることもありますが、その分達成感もものすごく大きいです。

文部科学省の業務に興味を持たれている皆さんにも、自分の考えが国の事業に反映されることの楽しさを是非体感してほしいです。いつか皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。

大臣官房

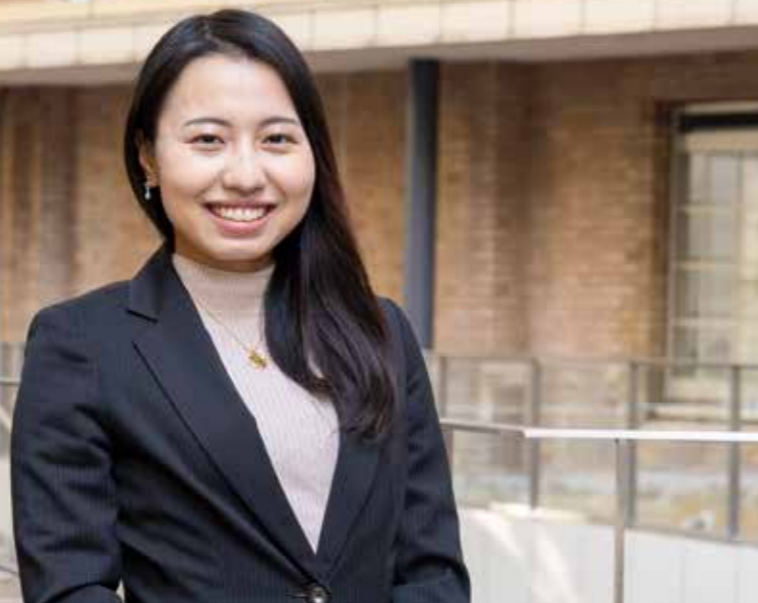
文部科学省全体の政策の
総合調整を担う舵取り役

国際課国際協力企画室
人物交流係

野内 瑛里

Yanai Eri

令和 4 年 入省 (行政)
令和 4 年 4 月 現職



国際社会と連携し、教育課題の解決を目指す

仕事の紹介

国際課は、文部科学行政における国際交流や国際協力に関することを担当しています。具体的には、G7教育大臣会合をはじめとした国際会議の企画運営や、各国要人の表敬訪問の対応等を通じて、国際社会との連携を推進しています。

私が所属する人物交流係は、欧州・北米・豪州に関する業務を担当しており、担当国の大使や要人による大臣への表敬訪問の対応、二国間会議の企画運営のほか、人的交流事業として、フルブライト奨学金事業や教職員の国際交流事業等を担当しています。また、日常的に外務省や在京各国大使館ともやりとりがあり、日々、担当地域との連携・協力関係の構築に努めております。



日米フルブライト交流計画
70周年記念式典の様子

文部科学省で働く魅力

2023年に、G7教育大臣会合が富山県及び石川県で開催されました。私は、主担当となるG7教育大臣会合準備室の所属ではありませんでしたが、G7の国々を担当していることもあり、大臣会合本体に付随して行われた二国間会談（バイ会談）の準備と当日対応を担当しました。

バイ会談の対応を通じて、各国においても日本と共通の教育課題を抱えており、それに対する各国の取組についてお互いに学び合うことが重要だと思いました。教育施策のほとんどが国内向けである一方、国際社会と連携することの意義を大いに実感しました。

また、国際課での業務は、主に対国外の業務になりますので、日本政府全体の方針を意識したり、国際社会から見た日本というものを考える機会が多くあります。そういった大局の視点を持つことは重要だと思いますし、今後、どこに所属したとしても生かせることだと思っています。こういった形で、各国政府とも関わりながら、大きな視野で、日本国内における教育施策のより良い方向性を考えることができるのは、文部科学省で働くことの魅力であると思います。



G7富山・金沢教育大臣会合 バイ会談の様子

1週間のスケジュール

- 月** 在京大使館との連絡調整
大臣への表敬訪問の申入れがあった際には、スケジュールの調整や会談時の話題の調整等、大使館の担当者と綿密にやりとりをします。
- 火** 表敬訪問当日に向けた資料作成
省内の関係局課と協力し、表敬訪問当日へ向けて資料を作成します。先方とのこれまでの協力関係や今後の協力について期待することを整理します。
- 水** 大臣への事前説明
作成した資料について、大臣へ事前の説明を行います。大臣への説明は上司が行うので、資料配布やメモとりで同席します。
- 木** 表敬訪問当日の対応
係で役割分担をし、先方の案内や会談中の写真撮影等について対応します。
- 金** 記録の作成及び
文部科学省公式 SNS への掲載
会談の内容について、記録を作成するとともに、会談の様子を文部科学省公式 SNS に掲載します。このようなハイレベルの面会を通じて、さらなる協力が進むようフォローしていきます。

文教施設
企画・防災部

文教施設の整備を通じて、
日本の“教育、科学技術・学術、
スポーツ、文化”を支える



参事官（施設防災担当）付
施設防災企画係長
（併）風水害対策係長

勝又 真理子

Katsumata Mariko

平成 28 年 入省 (建築)
平成 28 年 4 月 文部科学省大臣官房
文教施設企画部参事官付
平成 30 年 4 月 同 施設助成課
平成 30 年 10 月 大臣官房文教施設企画・防災部
施設助成課
令和 3 年 3 月 同 施設助成課技術係主任
令和 3 年 4 月 神奈川県横浜市教育委員会事務局
総務課担当係長
令和 5 年 4 月 現職

日本の未来をつくる仕事で建築の専門性を活かす

仕事の紹介

私が現在所属している文教施設企画・防災部では、学校をはじめとする文教施設（教育、研究、スポーツ及び文化施設）の施設整備に関する取組の支援・推進を行っています。学校施設は未来を担う子供たちの学びの場であり、また、地域住民の避難所にもなるとても大事な施設です。また、学術研究においては知の拠点ともなり、我が国の未来を支える施設とも言えます。

未来を担う子供たち誰もが、安心して安全な学習や生活ができる場所があるということは、当たり前のように、実はとても重要なことです。しかしながら、現在多くの学校は老朽化等により安全面や機能面で課題を抱えており、さらに学びのかたちは社会の変化やGIGAスクール構想の実現など、技術の進歩と共に変化を求められています。

現在の私の仕事は、参事官（施設防災担当）付という部署で、学校施設の水害対策のための手引の作成や、防災対策セミナーの実施、災害時には省内の支援を行っています。



外国政府への防災対策に関わる説明会の様子



学校施設の防災対策に関するセミナーの開催について説明する様子

志望動機と現在

日本の未来をつくる仕事がしたいと思い、文教施設企画・防災部を志望しました。

これまでの業務内容ですが、文教施設企画・防災部では、文教施設の建築、整備、維持管理など幅広い分野での仕事に携わりました。また、文教施設づくりへの技術的支援として、オリンピックパラリンピック選手用のトレーニングセンターをはじめとした様々な施設整備に関わりました。さらに、公立学校施設の整備に必要な事業費の一部を補助するための制度づくりも担当していました。

現在は、学校施設等の防災・減災対策の推進に関する業務を行っています。

文部科学省で建築の専門性を活かすというのは、なかなかイメージしづらく、また、少ないのではないかと思われがちですが、実際は活躍できる場はとても多く、またやりがいもあります。これからの日本をつくる大きな仕事を一緒に進めていきたいと思います。

年間スケジュール

避難所となる公立学校施設の防災機能に関する調査結果が公表されるまで

- 1 調査準備 (2022年12月)**
これまで実施した調査結果を踏まえつつ、現在必要な情報が何か、考えながら調査の準備を行います。
- 2 調査実施 (2022年12月)**
各自治体へ調査を発送します。調査に関する質問などを自治体から受けます。
- 3 集計・確認 (2022年12月～2023年3月)**
各自治体からの回答をまとめます。不備等があった場合は、自治体に確認を行います。
- 4 公表 (2023年7月)**
調査結果についてHP等で公表します。また、問合せなどの対応も行います。

クrostーク

同じ部署で働く「上司」と「部下」の2人に、普段の業務内容、仕事の中で大切にしていることや、それぞれの立場から見たお互いの様子等について語り合ってもらいました。

文化庁参事官
(生活文化創造担当) 付

係長

参事官(生活文化創造担当)付総務係長
永井 麗子 Nagai Reiko
平成24年入省(行政)

係員

参事官(生活文化創造担当)付総務係
石井 沙依 Ishii Sae
令和4年入省(行政)

係長

大臣官房会計課総括予算班第一係長
前橋 雄矢 Maehashi Yuya
平成27年入省(機械)

係員

大臣官房会計課総括予算班第一係
近江 翼 Omi Tsubasa
令和4年入省(化学)

大臣官房会計課
総括予算班

—所属されている課及びお二人の業務内容について教えてください

永井 参事官(生活文化創造担当)は、主に、文化芸術による共生社会の推進や地域の文化芸術、書道・茶道・華道等の生活文化等の振興、地域の伝統行事等の継承支援等を行っております。芸術文化の業務も文化財の業務もやっている珍しい部署ですね。私は総務係長として、予算要求の取りまとめや、職員の勤務管理等を行っています。

ご存じかもしれませんが、文化庁は令和5年3月27日から京都の新庁舎において業務を開始しています。私自身はその前から先行移転組織の一員として京都で勤務していたので、新庁舎への移転業務にも携わりました。国の組織が移転するというは想像以上に大変な業務でしたが、貴重な経験ができました。

石井 同じく総務係で主に旅費・庁費等の執行管理、労務的業務、それらに関わる文書管理などの庶務業務を担当しています。

京都庁舎ならではの業務という、日頃からオンラインでの会議・打合せが多く行われています。移転前から京都の先行組織との調整を会議システム等を使用して行い、移転後は庁内・外ともに主にオンラインでやり取りが行われています。私は文化庁の京都移転に合わせて東京から転勤となりましたが、移転時は広報に関わる別部署に、中央省庁の機能が初めて地方に移転するという、事の大きさを肌で感じる事ができました。

—普段の業務でのお互いの様子やどのようにコミュニケーションを取っているかについて教えてください

永井 石井さんはお任せする業務にしっかり対応してくれ、周囲にも目配りをしてくれるので、とても助かっています。私がやろうと思っていたことを先回りしてやってくれるので、頭が上がりません(笑)。コミュニケーションについては、声をかけやすい雰囲気づくりを心掛けています。コミュニケーションについては、声をかけやすい雰囲気づくりを心掛けています。コミュニケーションについては、声をかけやすい雰囲気づくりを心掛けています。コミュニケーションについては、声をかけやすい雰囲気づくりを心掛けています。

石井 ありがとうございます。私の方こそいつもお世話になるばかりで恐縮です…!永井さんは隣の席の私にだけでなく課内全体に対して、業務的な面はもちろん、日々の働きやすさや細かく気を配ってくださるため、職場のよい雰囲気ができあがっています。内容に合わせて、口頭で相談したり、チャットやメールでもコミュニケーションを取ることが多く、分からないことがあっても本当に丁寧に教えてくださるので絶大な信頼感があります。

—どういったところに係員と係長の違いを感じるか教えてください

石井 永井さんがこれまでの業務経験で得られている、知識、スキルと心構えに係長との違いを感じます。多くの調整の場面で、相手の立場や考え方に対する知識を持たれた上で、物事を着地点まで導くスキルと、様々な意見の中でもブレない働きかけができる心構えはこれまでのご経験やご自身の努力があってこそなのだと感じています。業務の知識だけでなく考え方や学ばせていただくことがとてもたくさんあります。

永井 ありがとうございます。先ほどもお話ししましたが、石井さんをお願いしたことだけではなく、それを踏まえて自ら先を見据えた動きをしてくださる方です。この仕事において先を見据えることはとても大切なので、その視点はこれからも持ち続けていただき、様々な経験を積まれる中で、周りの職員を見て、良いと思うことはどんどん吸収していただければ嬉しいです。

—仕事をする上で大切にしていること、意識していることについて教えてください

永井 スケジュールを立てて仕事をする事です。一人で完結できる仕事は少なく、ほとんどは様々な方から協力いただき進め仕事なので、いつ、誰に、何を頼むかというのを意識して取り組むようにしています。また、日々多くの業務に携わるので、優先順位や、メリハリをつけることも大切にしています。

石井 永井さんが大切にされていることは、私も隣で見ていると見習わせてもらっています。計画を立てるためには、様々な経験が必要になると思うので、私の場合はまず実現可能なスケジュールを立てるという段階に取り組んでいます。また個人的には、慎重な性格ということもあり、チェックを重ねるなど丁寧な仕事は常に心掛けています。

—文部科学省を目指す人へのメッセージをお願いします

永井 文部科学省の所掌する範囲は教育、科学技術・学術、スポーツ、文化と幅広いので、様々なバックグラウンドを持った方が集まっています。自分が今まで触れることのないものに触れ、成長し続けることができる職場だと思います。文部科学省に興味関心を持っていただき、そして、一緒に働けることを心待ちにしています。

石井 永井さんがおっしゃるように、文部科学省は所掌範囲が広く、集まる方も様々で、多くの方が未来に向けて高い志を持たれていると思います。そんな魅力の詰まった環境で挑戦しながら、新しい自分を発見してみてください。

—所属されている課及びお二人の業務内容について教えてください

前橋 様々な課題を解決するために必要な政策や施策を実施する手段の一つとして予算があります。会計課総括予算班では、夏の概算要求、冬の予算編成と1年をかけて省内の部局と財務省との調整業務を担当しており、特に私たちは科学技術分野の予算を担当しています。

科学技術分野の人材育成をはじめとする研究開発環境の整備や、宇宙分野やAI分野などの研究開発の推進等、実際の政策・施策に必要な予算の検討や執行はそれぞれの担当局課が実施している中で、私たちは限りある予算の中でその必要性や実効性等を担当局課と共に確認し、財務省への説明を行うという調整役を担っています。

近江 予算業務のうち、各局課が作成する予算や施策の資料を取りまとめ、文部科学省幹部、財務省、報道機関等外部に説明するための資料を作成しております。

これらの資料の取りまとめに当たっては、私の所属する会計課で実際に計数の管理を行う担当者や係とも密にコミュニケーションを取りながら仕事を進めており、科学技術分野を担当する部局や財務省の担当者との連携・調整も重要となっております。

—普段の業務でのお互いの様子やどのようにコミュニケーションを取っているかについて教えてください

前橋 近江さんはどんな仕事でもきちんと向き合っており、職員にもすぐに相談しているので、とてもフットワークが軽くがんばっているなど感じています。また日々のコミュニケーションは業務を助けると思っており、業務中に私が担当している業務について説明したり、勤務後のコミュニケーションも気軽に取っている方だと思います。

近江 各局課が作成する予算や施策の資料の取りまとめに当たっては、科技と文教予算で足並みを揃えて予算資料を作成していくことになるのですが、前橋係長は会計課の各ラインや研究3局、財務省と密にコミュニケーションを取ってくださっており、仕事上に関わる職員全員が働きやすい雰囲気を作ってくれています。そのため、仕事上で調整業務が発生した際など、どこに何の連絡をすべきか、どのように進めていくべきか常に考えてくださり、また、重要な事を必要なタイミングで伝えてくださり、常に、私が仕事をする上で知っておいた方がよいという情報や進め方をお話して下さるため大変心強いです。

—どういったところに係員と係長の違いを感じるか教えてください

近江 前橋係長は、私が抱えている業務において、様々なケースを想定しどのように業務を進めていけば良いのか常に気にかけてくださっていて、それに加えて予算や施策の資料の作成や取りまとめや、調整官や専門官から依頼があった他局や財務省との調整等を同時並行で進めていらっしゃる、その業務の進め方や対応されている姿にはいつも勉強させていただいております。

前橋 係員のころは業務のどこから手を付けて良いか、どのように資料を集めるべきか等悩むことが多いと思います。係長は補佐や課長と一緒に業務を行うことも多く、より広く多様な視点の情報を持っています。係員を導くというのは少しおこがましいですが、自身の業務だけではなく係全体の業務の効率的な遂行を行う必要があるという点をよく感じます。

—仕事をする上で大切にしていること、意識していることについて教えてください

前橋 私はコミュニケーションを取って共通理解を醸成しながら仕事をすることが大切だと思っています。施策を担当する局課に比べ、いわゆる現場との距離は遠いながら予算を取り扱っていることや、省内と財務省との調整を行っていることから、私たちだけではなく双方の考えをまとめていくことが大切だと日々感じています。

近江 物事を正確に伝えることで、まとまった情報だけでなく、物事の全体像を正確に伝えることで、全体の業務スピードも上がり、分担して仕事ができるようになるので、常にどの情報が必要で、どのような背景でその業務が行われているのか瞬時に把握し、仕事を進めていくことが、全員で一つの仕事に取り組む上で重要だと感じています。

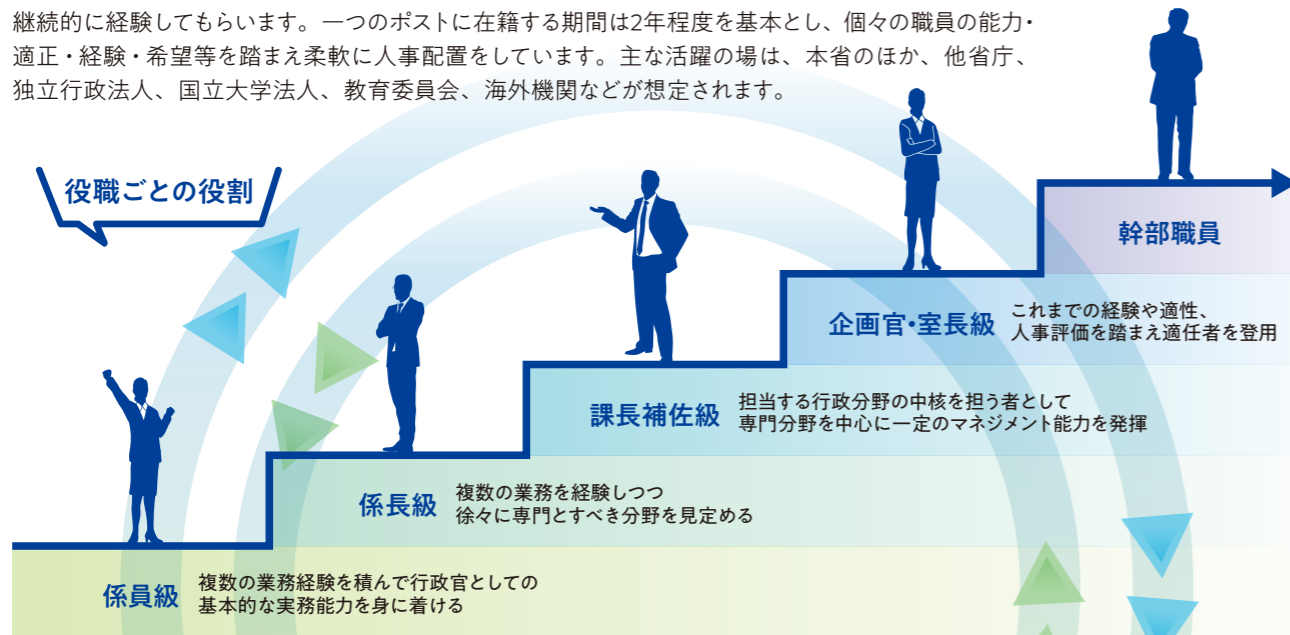
—文部科学省を目指す人へのメッセージをお願いします

前橋 国家公務員は政策や施策といった大きな仕事に携われる中で、文部科学省は特に教育や科学技術など私たちの未来に密接に関わってくる分野の最先端に携わることができるのが魅力だと思います。皆さんに会えることを楽しみにしています。

近江 文部科学省は所掌する範囲が多く、広範な経験が可能で、多様な人々と一緒に仕事ができるため、毎日刺激がある職場です。様々な選択肢がある中で、悔いのない就職活動をしていただき、そのうえで文部科学省を選んでいただけたら幸いです。一緒に働けることを心待ちにしています。

キャリアパス

入省後は、キャリア形成の中で、現場も含めた多様な経験を積み、各分野の業務に精通する機会を継続的に経験してもらいます。一つのポストに在籍する期間は2年程度を基本とし、個々の職員的能力・適正・経験・希望等を踏まえ柔軟に人事配置をしています。主な活躍の場は、本省のほか、他省庁、独立行政法人、国立大学法人、教育委員会、海外機関などが想定されます。



出向・留学制度

他省庁等への出向

複雑・高度化する行政課題に対応するため、もの見方や考え方の幅を広げる必要があります。また、異なる分野の行政に携わる人たちの交流を深める観点から重要な意味を持つため、積極的に行っています。

在外公館等での海外勤務

ボーダーレスの時代において、これからの行政に国際的な視点は欠かすことができません。外務省に出向して現地の大使館で外交官として勤務したり、国際機関に派遣されて国際公務員として活躍するという機会も設けられています。

地方自治体・国立大学法人等への出向

地方自治体や国立大学法人等の要請に応じ、都道府県や市町村の教育委員会、首長部局、国立大学法人や独立行政法人等への出向もあります。現場の教職員や研究者、文化関係者等と、教育、科学技術・学術、スポーツ、文化を考えていく貴重な機会となっています。

海外留学制度

グローバル人材育成のための研修である、人事院による長期在外研究員制度をはじめとした各種留学制度のほか、文部科学省の留学制度として宇宙関係、原子力関係の留学制度があります。

出向中の職員からのメッセージ

他省庁出向

内閣府科学技術・イノベーション推進事務局 参事官(イノベーション推進担当) 付 主査

和仁 裕之 Wani Hiroyuki

平成28年 入省(電気・電子・情報区分)

出向先での業務概要

内閣府科学技術・イノベーション推進事務局(CSTI)は、科学技術政策担当大臣の下、多種多様な科学技術イノベーション政策を行う組織です。私が所属しているイノベーション推進担当では、イノベーションを創出するスタートアップが次々と生まれ、大きく育つような仕組み(スタートアップ・エコシステム)の推進に取り組んでいます。「スタートアップ育成5か年計画(新しい資本主義実現会議決定(令和4年11月28日))」に基づき、SBIR制度という省庁連携で研究開発型スタートアップ等に対して、起業前から政府調達まで一貫通費で支援する取組の制度運営を担当しています。

出向を通して生まれた目標、今後挑戦したいこと

CSTIは各省庁、地方公共団体、大学、民間企業等からの出向者等と共に、各省庁の科学技術イノベーション政策の司令塔機能を有しています。出向前の約2年間、文部科学省で大学等発スタートアップ支援等の担当をしていましたが、関係省庁と連携してスタートアップの海外展開、規制緩和、公共調達促進等、文部科学省では味わえない幅広い分野の施策を推進しています。出向を通じて、スタートアップ支援のプロになるという目標を持ちながら、現場の自治体・金融機関・起業家・支援機関等と対話を重ねながら施策の具体化を進めることにチャレンジしていきたいと思っています。

BSJapanextの番組にテレビ出演した際のオフショット写真



地方自治体

新潟県佐渡市教育委員会 教育次長

鈴木 健一郎 Suzuki Kenichiro

平成23年 入省(行政)

出向先での業務概要

佐渡市は人口約5万人、東京23区の1.4倍の大きさの日本海側最大の島です。島内には、小学校が22校、中学校が13校あり、自然、文化、食などの豊かな資源を生かした特色ある教育活動を行っています。教育委員会には、学校教育をはじめ、スポーツや文化、図書館や公民館、博物館など所掌する業務は広く、100人以上の職員が在籍する大きな組織です。市長、教育長、各課長や現場の職員とよく議論を重ねながら必要な取組を進めています。特に、新しい施策である部活動の地域移行については、赴任後すぐにスポーツ庁とも調整しながら「佐渡市地域クラブ活動」を立ち上げました。

出向を通して得られた経験

これまで教育に関わる部署での経験はありましたが、本省から離れて現場に近い基礎自治体に出向したことで、分かることや見えることがたくさんあります。責任ある立場として、広く全体を見渡すことが大事であり、教育施策は当然ですが、議会答弁をはじめ災害や事故対応などの様々な場面において、難しい判断や選択が必要になります。このことは、今後の本省での業務につながるとともに、人生にとっても大きな糧となる貴重な経験であると思っています。

市長定例会見での発言の様子



国立大学法人

国立大学法人 琉球大学 上原キャンパス事務部 普天間キャンパス(仮称) 準備室・主任

二見 英里 Futami Eri

平成28年 入省(行政)

出向先での業務概要

私は、日本最南端かつ最西端の総合大学である琉球大学において、令和7(2025)年に予定している医学部と病院のキャンパス移転事業を担当しています。新キャンパスにおける運用や学内規則等の検討及び整備、患者・教職員・学生のための施設運営事業者の誘致、物品調達等、担当する業務は多岐にわたります。また、今回の移転先は、返還された駐留軍用地跡地となっており、今後の跡地利用のモデルとしても期待されています。次から次へと難題が降りかかることもしばしばですが、多様なバックグラウンドを持つ同僚と共に「移転」という大きなゴールに向かって、刺激的な毎日を送っています。

出向を通して得られた経験

国立大学への出向は、知見や自らの可能性を広げる機会だけでなく、本省で培ってきたこれまでの経験も大いに活かせる機会ともなっています。また、これからの高等教育や大学を深く理解する上で、非常に良い経験だと感じています。独自の文化や風習が根付く沖縄にある琉大ならではの視点だけでなく、枠組みに捉われず広い視点で物事を判断し、提案することが求められています。新しい風を吹かすことができるよう、日々業務に邁進し、残りの出向生活を充実したものにしていきたいです。

移転先の新病院前にて



独立行政法人

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 宇宙教育推進室 主事補

溝口 颯乃 Mizoguchi Hayano

令和3年 入省(化学)

出向先での業務概要

宇宙航空研究開発機構(JAXA)は、宇宙と空を活かし、安全で豊かな社会を実現するため、宇宙科学に関する研究開発を行っている国立研究機関です。私が所属する宇宙教育推進室は、JAXAが培ってきた様々な知識や技術、データや成果を活用して、幅広い世代に向けた教育プログラムを実施しています。宇宙=理科というイメージが強いかもしれませんが、宇宙は研究開発だけでなく、産業や社会全体とも幅広く関わっています。宇宙をきっかけとして、一人ひとりの学ぶ意欲を引き出し、将来の日本を担う人材の育成に貢献しています。

出向を通して得られた経験

出向は、文部科学省の業務から離れて、新たな経験ができる貴重な機会です。JAXAの教育プログラムは、文部科学省で議論しているアクティブラーニングやSTEAM教育等の考え方に沿って作成しています。そういったプログラムに参加した児童、生徒、学生たちが熱心に宇宙のことを勉強している姿を実際に間近で見て、今の日本に必要な学びは何かを常に考えています。文部科学省に戻ってからも、未来の研究者の「応援屋」となり、全ての人々が学びを深められる社会を作っていきたいです。



JAXA相模原キャンパスのロゴの前で

海外勤務

在ミャンマー日本国大使館 広報文化班・二等書記官

柏木 友希 Kashiwagi Yuki

平成20年 入省(行政)

出向先での業務概要

教育・文化・スポーツ分野の担当ですが、ミャンマーでは近年、日本留学熱が急激に高まっていることもあり、留学関連業務が主な業務となっています。具体的には、元留学生協会などの各機関と協力をしながら、国費外国人留学生の大使館推薦業務や留学相談などの留学支援業務、日本語学習者を対象にした「日本語スピーチコンテスト」、「日本文学翻訳コンテスト」といった文化イベントの実施を担当しています。

出向を通して得られた経験

業務上、現地学生と接する機会も多く、直接話を聞く中で、留学に関する可否通知1枚や、日本政府の発行する文書の中にあるたった1行が、様々な状況下で必死に日本留学を目指している若者の人生に、どれだけ大きく影響しているのかという日々痛感しています。出向を通じ、ミャンマーという国で現地学生と関わったことで、行政事務の重さを実感し、1つ1つの業務を丁寧に、人の心に寄り添いながら行っていくことの大切さを改めて学ぶことができました。ミャンマー元日本留学生協会創立記念イベントで留学アドバイザーの先生と(右が筆者)



各役職の職員からのメッセージ

係長級

初等中等教育局
初等中等教育企画課総務係長
鶴原 寛之 Tsuruhara Hiroyuki

これまでの経歴の簡単な紹介と一番印象に残っている業務について

入省してからこれまで、文部科学省予算の取りまとめ、私立学校への助成、学校保健や健康教育の推進、高校生への修学支援等の業務を担当しました。また、国立大学に出向して、大学の総務業務も経験しました。様々な業務に携わる中で、一番印象に残っていることは…と考えてみました。なかなか一つに絞ることができません。予算の調整が上手くいかず上司にアドバイスをもらったこと。学校教育をより良くするため専門の先生と議論したこと。上司や同僚と相談しながら新しい支援制度を作ったこと。どの業務も共通して、自分一人の力では上手くいかなかったはずです。私が一番印象に残っていることは、上司や同僚、仲間たちと一緒に働いた全ての時間で。

現在の業務内容、現在の役職での役割、心がけていること

現在は、幼稚園から高等学校段階までの学校教育を所掌する初等中等教育局において、初等中等教育行政が滞りなく遂行されるよう、総務の取りまとめ業務を担当しています。具体的には、局全体の窓口として、人事や庶務に関わる総合調整、予算執行の取りまとめ等の業務です。今の私の業務は、教育委員会や学校、子供たちと直接的に関わるものではありません。誰かと誰かの間に入って調整をしたり、初等中等教育局で働く職員さんが困ったときに支えたりすることが主な役割です。自分のやった仕事の成果が見えにくいこともあります。しかし、そんな私の仕事だって、辿っていけば必ず教育現場につながっていることを意識して、日々の業務に取り組むよう心がけています。



平成 19 年 入省 (行政)
平成 19 年 4 月 文部科学省大臣官房会計課第三予算班
平成 21 年 4 月 同 大臣官房会計課第一予算班
平成 22 年 4 月 国立大学法人香川大学経営管理室総務グループ
平成 23 年 4 月 同 総合企画室
平成 24 年 4 月 文部科学省高等教育局私学部私学助成課
平成 26 年 10 月 同 高等教育局私学部私学助成課総括係主任
平成 27 年 2 月 スポーツ・青少年局学校健康教育課保健指導係主任
平成 27 年 10 月 文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課専門職
平成 28 年 4 月 同 初等中等教育局健康教育・食育課保健指導係長
平成 28 年 10 月 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課専門職
平成 29 年 4 月 同 高等教育局私学部私学助成課助成第四係長
平成 31 年 4 月 同 初等中等教育局財務課高校修学支援室高校奨学金係長
令和 3 年 10 月 同 初等中等教育局修学支援・教材課
高校修学支援室高校奨学金係長
令和 4 年 4 月 現職

文部科学省で働くことの魅力、学生等へのメッセージ

私が皆さんと同じ年頃で、慣れないスーツを着て文部科学省の採用面接に参加したときのことです。当時の採用担当者から「文部科学省は日本の未来を創る仕事をしている」という話を聞きました。その言葉は私にとってとても印象的で、今でも強く心に残っています。想像してみてください。自分の携った仕事で、国の教育政策として実行されたとします。すぐには成果が出ないかもしれませんが、何か問題が起きるかもしれません。試行錯誤を繰り返して、改善をして、やがて、その政策に基づき学校教育を受けた子供たちが成長し、大人になり、その時の日本が今よりさらに良い国になっていたとしたら。ワクワクしませんか？

課長補佐級

研究振興局ライフサイエンス課
生命倫理・安全対策室室長補佐
吉田 彩乃 Yoshida Ayano

これまでの経歴の簡単な紹介と一番印象に残っている業務について

これまで、文部科学省では、ライフサイエンス分野の研究開発の振興、生命倫理に関する業務や、理化学研究所の運営支援などの業務に携わるとともに、原子力規制庁や内閣府（科学技術・イノベーション推進事務局）への出向、経済協力開発機構原子力機関（OECD/NEA）への海外留学などを経験しました。どの業務においても得られるものが多く、何が一番と言うのは難しいですが、特に他省庁への出向において、他省庁の職員の方々、民間企業や大学の方々等、価値観の異なる多様な方と一緒に仕事をすることができたことは自分にとって非常に良い経験になったと思っています。

現在の業務内容、現在の役職での役割、心がけていること

現在は、ライフサイエンス課生命倫理・安全対策室において、人を対象とする生命・医学系の研究を行う際を守るべき指針の運用や、見直しに関する業務を担当しています。生命・医学系の研究は、医療の発展や私たちの生活の質の向上等に大きく貢献する一方で、患者さんの試料や情報を扱うことから、倫理面や個人情報の取扱いなど様々な観点に配慮し、指針を整備していく必要があります。見直しの検討にあたっては、専門委員会において様々な立場の専門家の方々から意見を聴取し、改正案を取りまとめています。実際に研究をする方々にとってより良い指針となるよう、日頃から視野を広く持ち、様々な視点に立って考えられるよう心がけています。

文部科学省で働くことの魅力、学生等へのメッセージ

扱う分野が非常に幅広く、様々な分野の最先端の科学技術に関われること、スケールの大きな業務に携われることは、文部科学省で働くことの魅力の一つだと思います。また、自分のキャリアにおいては、研究推進、生命倫理等、様々な視点から科学技術を考えることができ、視野を広げるという意味でもとても良い経験をさせていただいていると思います。省内の様々な部署だけでなく、他省庁等への出向や海外など、活躍の場は様々なところにあります。皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。

平成 18 年 入省 (化学)
平成 17 年 10 月 文部科学省研究振興局ライフサイエンス課
平成 18 年 7 月 同 研究振興局ライフサイエンス課生命倫理・安全対策室
平成 19 年 10 月 原子力安全・保安院原子力発電検査課
平成 21 年 10 月 文部科学省生涯学習政策局参事官付
平成 23 年 3 月 同 研究開発局原子力課専門職 (原子力留学:OECD/NEA)
平成 24 年 4 月 内閣府政策統括官 (科学技術政策・イノベーション担当) 付参事官 (重要課題達成担当) 付主査
平成 26 年 4 月 原子力規制委員会原子力規制庁原子力規制部安全規制管理官 (廃棄物・貯蔵・輸送担当) 付総括係長
平成 28 年 4 月 文部科学省研究振興局基礎研究振興課理研係長
平成 29 年 6 月 同 研究開発局宇宙開発利用課専門職
平成 30 年 4 月 (育児休業)
令和 元 年 5 月 文部科学省研究振興局ライフサイエンス課生命倫理・安全対策室専門職
令和 2 年 9 月 (育児休業)
令和 3 年 5 月 文部科学省科学技術・学術政策局企画評価課専門職
令和 4 年 4 月 同 科学技術・学術政策局研究開発戦略課専門官
令和 4 年 8 月 現職



課長補佐級

総合教育政策局地域学習推進課
青少年教育室室長補佐
葛城 昌弘 Katsuragi Masahiro

これまでの経歴の簡単な紹介と一番印象に残っている業務について

文部科学省では、我が国の競技スポーツにおける国際競技力の向上、私立学校・専修学校、青少年教育の振興や、出向した国立大学において中期計画の策定等、様々な業務に従事してきました。豪雨の被害があった「平成30年7月豪雨」。元気に遊びまわっていた子供たちも被災し、避難所等での生活を余儀なくされました。当時所属していた部署では、所管する独立行政法人の協力を仰ぎ、被災した子供たちのリフレッシュ・キャンプを企画しました。被災した自宅の片づけで、この夏はどこにも連れていけなかったので、子供たちが思いっきり羽を伸ばすことができありがたかったと、キャンプの終了後に届いたあるお子さんの保護者からの手紙に涙が出たことを記憶しています。

現在の業務内容、現在の役職での役割、心がけていること

現在、所属している地域学習推進課では、「青少年教育の振興」を担当しています。こういった情報でも、インターネットで少し調べれば「結果」が出てくる時代です。こんな時代だからこそ、多くの青少年にリアルな体験を提供し、豊かな感性や好奇心・探求心を育んでもらいたい。そんなことを考える部署です。「体験活動は人づくりの“原点”」。そんなことに思いを馳せながら、体験活動を通じて、多くの子供たちが感動したり、驚いたり、様々な気付きや発見が経験できるようになるには、国としてこういった取組や支援をしたら良いのか、多様な関係者との対話を重ねながら、日々の業務に取り組んでいます。

文部科学省で働くことの魅力、学生等へのメッセージ

文部科学省のシンボルマークは「羅針盤」をモチーフにしているって、知っていましたか？教育、科学技術・学術、スポーツ、文化の振興を通じて、希望に満ちた未来を目指す、そんな文部科学省の役割を示しているのだそうです。日々の業務の成果が、すぐに目に見える形で表れるかといえば、必ずしもそうではありません。「どうもありがとう！」なんて、直接お礼を言っていただけの機会も稀かもしれません。けれども、皆さんが今、ちょっと向き合ってみようかなあと思っていてくれる文部科学省の業務の一つ一つが、きっと世の中の誰かのためになる、誰かの助けになる、数十年後だったとしても、きっとプラスの影響があると、そう信じてもらえるなら、難しいことは考えずに、文部科学省で一緒に汗をかいてみませんか！



平成 17 年 入省 (行政)
平成 17 年 4 月 文部科学省大臣官房人事課企画班
平成 18 年 4 月 同 大臣官房人事課任用班
平成 19 年 4 月 同 スポーツ・青少年局競技スポーツ課
平成 21 年 4 月 同 高等教育局私学部私学助成課
平成 22 年 4 月 国立大学法人豊橋技術科学大学総務課学長オフィス付
平成 23 年 4 月 同 研究協力課付 (研究支援グループ)
平成 24 年 4 月 文部科学省大臣官房総務課審議班
平成 24 年 10 月 同 大臣官房総務課審議班審議第一係主任
平成 25 年 10 月 同 大臣官房総務課審議班専門職
平成 26 年 4 月 同 生涯学習政策局生涯学習推進課専修学校教育振興室専門職
平成 27 年 4 月 同 生涯学習政策局専修学校教育振興室専修学校第二係長 (育児休業/1カ月)
平成 28 年 1 月 (育児休業/1カ月)
平成 29 年 4 月 同 生涯学習政策局青少年教育課庶務係長
平成 30 年 10 月 同 総合教育政策局調査企画課庶務係長
令和 2 年 4 月 同 総合教育政策局地域学習推進課庶務係長
令和 3 年 4 月 国立大学法人千葉大学企画総務部企画政策課長
令和 5 年 4 月 現職

企画官・室長級

研究開発局宇宙開発利用課
宇宙開発連携協力推進官
臼井 暁子 Usui Akiko

これまでの経歴の簡単な紹介と一番印象に残っている業務について

これまでの業務経歴では原子力安全規制に従事した年数が最も長く、そのほか、科学技術行政や国会事務局、国立研究開発法人での研究管理等も経験しました。特に、科学技術に関する高等の専門的応用能力を有する者を認定する国家資格である技術士の制度改革や試験管理に従事した際に、建設・農業・船舶・機械等々、我が国先端技術を支える全ての分野のトップランナーの方々との懇意にさせていただき、伺った御意見や体験談を踏まえ新たな施策を推進していったことは、貴重な経験となりました。

現在の業務内容、現在の役職での役割、心がけていること

主に航空宇宙技術分野における研究環境の整備・改善に向けた方策の検討や、研究開発費の拡充等の推進、人材育成及び産業連携に向けた支援を行っています。研究者の方々を着実に研究開発を実施できるように支援するためには、関係者とのコミュニケーションが大事ですが、言われたことや活字で書かれたことを表面的に読み取るだけでは真の理解は深まりません。相手の態度、いつもの話題、表情など、理解するヒントは色々あります。促成栽培は不可能なので、常に感謝と尊敬の気持ちを持って相手の考え方に興味を抱きつつ接するよう心がけています。

文部科学省で働くことの魅力、学生等へのメッセージ

行政に限る話ではありませんが、一般的に、仕事というものは専門分野に偏ってしまいがちです。一方、文部科学省では、様々な分野の最先端の科学技術に触れる機会が多々あります。このような中で、普段はなかなか近づけないようなその道のプロの方々とも、若手のうちから議論を行うことができ、最先端の技術を身近に感じられることは得がたい経験になります。こんな魅力満載の文部科学省で一緒に働けることを楽しみにしています。

平成 7 年 入省 (物理)
平成 7 年 4 月 科学技術庁長官官房秘書課
同 科学技術振興局企画課
平成 8 年 4 月 同 原子力安全局核燃料規制課
平成 10 年 7 月 参議院常任委員会調査員
平成 13 年 1 月 文部科学省科学技術・学術政策局調査調整課専門職
平成 13 年 7 月 内閣府原子力安全委員会事務局規制調査課規制第1係長
平成 14 年 4 月 同 規制調査課規制調査官
平成 15 年 4 月 同 審査指針課安全調査官
平成 16 年 8 月 文部科学省研究開発局地震・防災研究課
防災科学技術推進室防災科学技術係長
平成 17 年 2 月 原子力安全・保安院核燃料サイクル規制課
製錬・加工班製錬・加工審査係長
平成 19 年 4 月 内閣府原子力安全委員会事務局規制調査課規制調査官
平成 22 年 4 月 文部科学省科学技術・学術政策局原子力安全課放射線規制室専門官
平成 23 年 4 月 同 科学技術・学術政策局原子力安全課放射線規制室廃止措置確認専門官
平成 24 年 9 月 同 研究開発局開発企画課核不拡散・保障措置室室長補佐
平成 26 年 5 月 原子力規制委員会原子力規制庁放射線防護対策部放射線対策・保障措置課保障措置室室長補佐 (総括担当)
平成 27 年 5 月 同 原子力規制部安全規制管理官 (新型炉・試験研究炉・廃止措置担当) 付管理官補佐 (試験研究炉担当)
平成 29 年 4 月 同 原子力規制部安全規制管理官 (新型炉・試験研究炉・廃止措置担当) 付廃止措置専門官
平成 29 年 7 月 同 原子力規制部実用炉審査部門廃止措置専門官
平成 31 年 4 月 物質・材料研究機構技術開発・共用部門事務統括室調査役
令和 3 年 4 月 文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課専門官
令和 5 年 7 月 現職



ワークライフ バランス

文部科学省では、令和3年度から令和7年度末を対象とする「文部科学省における女性職員の活躍と職員のワークライフバランスの推進のための取組計画」を策定し、全ての職員が能力等を発揮しつつ、誇りとやりがいを持って生き生きと働くことができる職場環境づくりに積極的に取り組んでいます。

ワークライフバランスを推進する各種支援制度・取組（一部）

テレワーク勤務

ICTを活用し、自宅等において勤務することができる制度です。育児や介護を行う職員だけでなく、目的を問わず全ての職員がテレワーク勤務をできる体制が整っています。

早出遅出勤務

出勤を必要とする場合でも目的を問わず、1日の勤務時間を変えずに全ての職員が始業の時間を7時から13時までの幅広い時間帯で柔軟に設定することができます。

フレックスタイム制

総勤務時間数を変えないまま、始業・終業の時刻を自らのライフスタイルに合わせて柔軟に設定することのできる制度です。

出産・育児に関わる制度・取組（一部）

		妊娠	出産	1歳	2歳	3歳	小学校就学前
産前休暇	出産予定日の6週間前から女性職員が取得できます。		■				
産後休暇	出産の日の翌日から8週間を経過する日までの期間に、女性職員が取得できます。		■				
配偶者出産休暇	妻の出産時の付き添い・入院補助等のために、男性職員が2日以内で取得できます。		■				
育児参加のための休暇	妻の産前休暇期間から産後1年までの期間に、子を養育する男性職員が5日以内で取得できます。		■	■			
保育時間	生後1年未満の子の授乳や、託児所への送迎を行う場合に取得できます。		■				
育児休業	子を養育するため、子が3歳に達する日まで、一定期間休業することができます。		■	■	■		
育児時間	小学校就学前の子を養育するため、1日2時間以内で勤務しないことが認められます。		■	■	■	■	
休憩時間の短縮	小学校就学前の子を養育する職員、小学生の子を送迎する職員で公務の運営に支障がないと認められる場合は、休憩時間を短縮することができます。		■	■	■	■	■
子の看護のための休暇	小学校就学前の子を看護する必要がある場合に、1年のうち5日以内で取得できます。		■	■	■	■	■

※この二つの休暇を合わせて「男の産休」とし、全府省で取得を促進しています。

※出産した女性は産後休暇終了後からの取得となります。

※小学校卒業まで

大臣官房人事課計画調整班評価係

鈴木 香澄 Suzuki Kasumi

平成30年入省（行政）

約1年の産休・育休を経て復帰し、現在3歳の子供を育てています。保育園入所当初は慣れない保育園生活で体調を崩すことも多かったため、1歳になるまで保育時間（30分×2回/日）を取得していました。保育園の送迎を夫と分担し、お迎えの曜日は早出遅出勤務と休憩時間の短縮を利用することで、復帰後もフルタイム勤務を続けています。周囲の「家庭と仕事の両立」への深い理解に感謝するとともに、定時で切り上げる必要がある中、いかに効率よくメリハリを付けて仕事に取り組むかを日々意識しています。



勤務時間

制度利用前 9:30~18:15

制度利用後 月水金 / 8:30~17:00（休憩時間45分*）
火木 / 9:30~18:15
（※）早出遅出勤務・休憩時間の短縮を利用

研究振興局参事官

（ナノテクノロジー・物質・材料担当）付専門職

水田 剛 Mizuta Go

平成24年入省（電気・電子・情報）



第一子の誕生に伴い、3カ月程度の育児休業を取得しました。上司等の理解や協力もあり、希望通りの期間、育児休業を取得することができました。


現在働く部署では、仕事と育児を両立している職員も多く、始業時間の柔軟な調整やテレワークの活用など、育児に積極的に参加できる環境です。出勤する日も、出勤前にミルクをあげ、帰宅後に寝かしつけなど、毎日子供の成長を見ることができています。

勤務時間

制度利用前 9:30~18:15 週5日出勤

制度利用後 8:00~16:45 もしくは、9:30~18:15
週2日在宅勤務、週3日出勤
（業務の都合や家庭の都合により毎週調整）

1日のタイムスケジュール

- 09:30 ● 出勤**
出勤後は前日の振り返りとメールチェック、その日の業務の整理をしています。
- 10:00 ● 財務省等からの依頼内容の確認**
財務省等からの依頼内容を確認し、財務省との日程調整や予算班の各担当者への作業依頼を行います。各担当者が少しでも楽になればと思い、できる限り作業をしたうえで依頼するようにしています。
- 12:00 ● ランチタイム**
おいしいお弁当やランチを食べに外に行きます。お昼は仕事のことを忘れておいしいものを食べてリフレッシュします。
- 13:00 ● 各種調整**
午前中に発注した調書の作成について、予算班各担当者や、担当部局からの問合せや相談を受けます。場合によっては財務省とも相談し、作業内容を整理していきます。
予算の業務は、迅速かつ正確な対応を求められるので集中力勝負です！
- 
- 18:00 ● 全体の取りまとめ・確認**
各担当での作業が完了し、提出があったものについて、取りまとめの作業を行います。
金額に間違いはないかの確認はもちろん、全体を通して見たとき、または過去の実績と比較したときに矛盾している点がないか、文部科学省の回答として適切かどうか等の最終確認をします。
- 21:00 ● 退庁**
業務が落ち着いているときは、上司がよく食事に連れて行ってくれます。先日は、新橋の美味しい焼肉に連れて行っていただきました！
メリハリをつけて業務を行うことで、平日も充実した時間を過ごせるよう心掛けています。



大臣官房会計課第一予算班第一係
川上 守 Kawakami Mamoru
令和2年入省（行政）

現在の業務について

官房や文化庁の予算要求、文部科学省全体の予算額管理業務等に携わっています。
予算要求に関する業務では、各局課と財務省との繋ぎ役として、円滑に協議が進むよう日頃から担当者と積極的にコミュニケーションを取ることを心掛け、より良い予算になるよう努めています。

定時後や休日の過ごし方

定時後は読書や運動などで自己研鑽に時間を当てています。
休日はフットサルや芸術鑑賞、食べ歩きなどでリフレッシュ！
国立競技場や近郊のスタジアムで行われるサッカーの代表戦、海外の強豪クラブの試合を見に行ったりもしています。



平均
退庁時間

【繁忙期】 23:00 【閑散期】 19:00
【年間を通じての平均】 21:00

研究振興局ライフサイエンス課
再生医療／ゲノム研究／バイオバンク担当
高橋 沙枝 Takahashi Sae
令和4年入省（化学）

現在の業務について

再生医療やヒトゲノムの研究開発推進、バイオバンクの運営に関わる業務を行っています。現状の課題解決のみならず、未来の恩恵を考え、研究者や国研と協力しながら、事業の運営に取り組んでいます。

定時後や休日の過ごし方



まとまった休みが取れた時は友達と旅行に行きます。去年は淡路島に行きました！
気分が浮き沈みする時も、友達と会うと元気になります。同期と休暇を合わせ、遊びに行くこともあります。



平均
退庁時間

【繁忙期】 20:00 【閑散期】 18:30
【年間を通じての平均】 19:00

1日のタイムスケジュール

- 09:30 ● 出勤**
定時通りの出勤です。朝一番にメールを確認します。
喫緊の対応が求められるものがないか確認します。
- 10:30 ● 資料の作成**
文部科学省の公表予定資料を、ほんの少しの間違いないよう、注意して作成します。
できた資料のパワーポイントを上司に見てもらいました。
- 
- 12:00 ● お昼休み**
普段はお弁当が多いですが、たまに同期とランチに行き、趣味の話などをしてリフレッシュします。
- 14:00 ● 打合せ**
研究者の先生と、対面で久々の打ち合わせです。
アカデミアなど現場の考えを知ることが、とても大切だと痛感しました。
- 
- 17:00 ● 論点整理**
先ほどの打ち合わせで出た内容を整理します。その時分からなかったり、ふしぎに思ったことは、後から調べて補います。
- 18:15 ● 退庁**
定時で退庁し、日比谷で友達とご飯に行きました。盛り上がるほどさよならが遅れます。



一年目職員からのメッセージ

志望動機

教育や科学技術等の振興を通じて、この国の未来のために働くというやりがいと責任感に大きな魅力を感じたことが一番の理由です。また、官庁訪問等を通じて職員の方とお話しする中で、仕事に対して前向きな方や、優しい方が多いという印象を持ったことも志望理由の一つです。(行政/大臣官房)

未来への先行投資である文部科学省の仕事に携わりたいと思志望しました。特に教育現場を支える人を支えたい、それは間接的にも幼児・児童・生徒を支えることにもつながると思、自分が行政官として少しでも役に立ちたいと思入省を目指しました。(行政/大臣官房)

大学時代に文化財の調査に関わった経験から、日本文化や文化財の保護に携わりたいと思志望しました。実際に文化財保護の現場に赴く中で、作業することはもちろん、未来につなげていくための取組も必要だと考え、文部科学省であればその仕事ができると思ったからです。(行政/大臣官房)

学生時代にスポーツに打ち込んでいた経験から、社会人になると仕事の忙しさ等によってスポーツをする人が減少すること

に危機感を抱いていました。社会人になってもスポーツに取り組みやすい環境を整備したいと思、スポーツ庁を所掌する文部科学省を志望しました。(行政/総合教育政策局)

教育学部に所属していましたが、一教員としてではなく国という視点から教育に関わりたいと思志望しました。また文部科学省が所管している4つの分野が全て、人がらしく生きる上での土台となっている点も働きがいがあると思いました。(行政/総合教育政策局)

国籍やバックグラウンドに関係なく、誰もが安心して学べる教育環境の確立に携わりたかったからです。地方自治体での近距離の支援も重要ですが、私は文部科学省の所掌する4つの分野から、幅広く貢献したいと考え文部科学省を志望しました。(行政/高等教育局)

科学技術が進歩する中で、研究活動を推進するだけでなく、倫理面や社会的な問題を考慮し、時代に合わせて議論や制度を再構築し、指針を定め、行政の側面から科学技術と社会活動の調整役を担う仕事に興味を持ち、文部科学省を志望いたしました。(農学/科学技術・学術政策局)

仕事のやりがい

やりがいを感じます。報告書に笑顔の写真が載っていると、なおさらです。(行政/総合教育政策局)

普段の業務の中では、自分の仕事がどのように社会に反映されているのかわからないことが多いです。しかし、現場を訪れたときには担当する事業がうまく活用されている事例を見てやりがいを感じました。また、国の仕事は社会情勢に大きく影響されることから、自分の業務が今の社会のトレンドになっていると、国単位での仕事であると強く感じるすることができます。(行政/初等中等教育局)

一般職1年目はロジ関係(日程調整等)の仕事が多く直接政策につながることは少ないですが、自身が運営する会議等で上司の方々が意見交換を交わし、その過程が自身が管轄する教育機関に大きな影響をもたらすと考えるとやりがいを感じます。また、仕事に従事していると所属課以外の教育に関する知識も自然と身に付くものなので、自身の勉強にもつながります。(行政/高等教育局)

文部科学省の窓口として、他省庁との折衝や省内を取りまとめる部署に所属していますが、入省して早々に国全体に影響を及ぼすような政策に携われることや、上司とも相談しながら、自分の考えを出発点として、政策に関する調整を行えることが大きなやりがいです。(行政/大臣官房)

直接、補助金事業に携わったわけではありませんが、執行に携わった事業の現場を視察する機会があり、実際に活用されている様子を見て、より仕事を頑張りたいと思しました。内容も全国的に波及するものなので、関わる仕事の大きさを感じるとともに、やりがいを感じます。(行政/大臣官房)

決算の仕事をしてありますが、どういった事業にどれほどの金額が使われているかを知ることができます。仕事を通して文部科学省全体の事業を会計の観点から知ることができるのは、とても貴重な体験であり、やりがいを感じています。(行政/大臣官房)

委託先から、事業に参加した子供たちの声を聞いたときに一番

職場の雰囲気

皆さん基本的には静かにそれぞれの仕事に取り組まれています。ですが、たまに雑談等でコミュニケーションを取ることもありますし、係や班内で飲み会等に行くこともあり、その際は皆さん砕けた雰囲気でも和やかです。メリハリのある職場だと感じています。(行政/大臣官房)

業務に関することは的確にご指導いただける一方で、定時後やお昼の時間などは雑談も多く明るい雰囲気です。特に業務で忙しく余裕のなくなる時期などは、上司が少しでも和やかな雰囲気を作ろうとくださっているのが感じられ、ありがたいです。周りの方に恵まれていると日々感じています。(行政/初等中等教育局)

困ったことがあればすぐ相談できる環境で、とてもいい雰囲気です。仕事ができます!(行政/科学技術・学術政策局)

定期的にテレワークを取得される方や、勤務時間内に仕事を終わらせて定時に退勤される方が多く、働きやすい環境です。また、仕事上の事案について細かく上司と話しあうことができ、学ばせていただくことが多い毎日です。(農学/科学技術・学術政策局)

コミュニケーションが盛んに行われており、活気があります。チャレンジ精神が尊重される雰囲気の中で、様々な業務を経験することができます。上司と部下の距離が比較的近いため話しやすいこともあり、課内に一体感があります。(化学/科学技術・学術政策局)

文部科学省を目指す方へ

文部科学省は「またこの方たちと一緒に働きたい!」と思うくらい素敵な方がたくさんいる職場だと思います。大変なこともあるかと思いますが、文部科学省を目指していただいている皆さまの入省を心よりお待ちしております!(行政/大臣官房)

文部科学省にはたくさんの部署があり、同期でもやっている仕事内容は人によってバラバラです。それゆえ、同期の仕事内容を聞くのも非常に興味深いです。自分が国家公務員として働いているという重責を感じることも多々ありますが、毎日新しい発見がある職場でぜひ一緒に働きましょう。(行政/総合教育政策局)

教育、科学技術・学術、スポーツ、文化の幅広い分野で、日本の底力を育てている省庁であり、日々誇りをもって仕事ができます。入省をお待ちしています!(行政/総合教育政策局)

勤務時間外の過ごし方

定時後は同期や2、3年上の先輩と飲みに行っています!土日はジムに通ってリフレッシュしています!(行政/大臣官房)

普段は仕事に時間もキャパシティも消費しているので、休日は仕事のことは考えず、趣味に没頭しています。仕事も趣味も手を抜かないがモットーです。(行政/総合教育政策局)

職場のフットサルサークルで体を動かしています!(行政/初等中等教育局)

美術館に行ったり友達とご飯に行ったり、週末を充実させようと心掛けています。少し遠出した方がリフレッシュできる気がします。平日も早く帰れる時は、まっすぐ帰宅するのではなく、買い物したり映画を見たりすることでオフモードに切り替えています。(行政/初等中等教育局)

休日は、毎週欠かさず大学時代から続けている習い事に通っています。土日祝日はお休みなので予定を立てやすく、希望日に休暇を取ることもできるので、自分の時間を十分に確保することが可能です。(行政/高等教育局)

休日は、サウナに行き整っています。上司から野球に誘われたら参加しています!(行政/科学技術・学術政策局)

無数の選択肢がある中で悩んでいる方も多くと思います。ただ自分が就職する上で大切にしている軸と、文部科学省の業務内容や目的がマッチしていれば、自信をもっておすすめできる職場です。一緒に働ける日を楽しみにしています。(行政/総合教育政策局)

文部科学省では教育、科学技術・学術、スポーツ、文化と様々な分野を所掌しています。どの分野も国の未来を創る重要な要素であり、非常にやりがいを持ちながら日々仕事をできています。色々考えることもあると思いますが、自分の気持ちを感じて頑張ってください!(行政/高等教育局)

進路に迷ったら、ご自身がよりワクワクすることにチャレンジしていただきたいと思います。教育、科学技術・学術、スポーツ、文化に興味があれば、ぜひ文部科学省への入省をご検討ください。応援しています。(化学/科学技術・学術政策局)

※(採用区分/現所属)



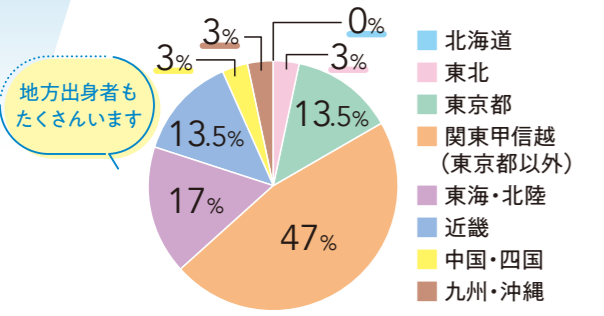
若手職員アンケート

入省1~3年目の職員にアンケートを取り、説明会や職員訪問等でよく聞かれる質問に答えてもらいました!

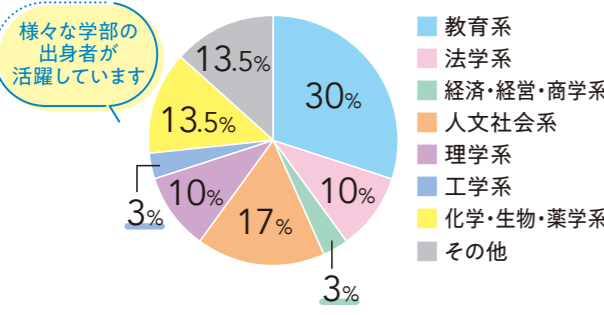
文部科学省職員研修体系 (主なものを抜粋)

必須 任意

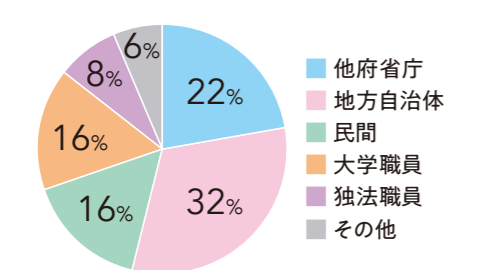
Q1 出身地域はどこですか?



Q2 大学時代の学部を教えてください



Q3 就職活動で併願した先はどこですか?



Q4 文部科学省を選んだ決め手を教えてください

- 同期が良い人ばかりだったからです。(1年目)
- 以前から興味があった文化行政の中心的な役割を担う組織であるからです。(1年目)
- 元々教育関係の企業に勤めており、様々な立場からの子供の教育に関心があったからです。(1年目)
- 国全体の教育方針の決定等ができる場所で働きたいと思っていたため、文部科学省以外の選択肢はありませんでした。(2年目)
- 自らの将来の夢であった教員の処遇・待遇を改善できる職場だからです。(2年目)
- 次の世代が科学に興味を持てる機会のある社会の構築に携われるのは文部科学省と考えたからです。(2年目)
- 教育のみならず、科学技術、スポーツ、文化など幅広い分野を担当しており、日本の未来を担う行政機関であると感じたからです。(3年目)
- 研究者と関わる仕事ができることです。(3年目)

Q5 文部科学省ならではの魅力を教えてください

- 各分野のスペシャリストと関われることです。(1年目)
- 子供たちのためならと考えると、どんな仕事でも前向きに取り組める(気がする)ことです。(1年目)
- 大学卒業までの人生で必ず経験するフィールドを対象とする業務を所掌しており、他省庁や自治体等よりも業務内容をイメージしやすいように思います。(1年目)
- 全国津々浦々の大学へ出張で行けることです。(2年目)
- 所掌範囲が広いので、日々勉強できる環境であることです。(2年目)
- 人々の暮らしや人生に大きく影響を与える幅広い分野に携われることです。(2年目)
- 教育、科学技術など幅広い分野を所掌していることです。(2年目)
- 地方の教育委員会への研修の機会があることです。(3年目)
- 「教育」は全ての人に関わったことがある部門であり、誰もが想像できる内容の仕事に関われることです。(3年目)

Q6 入省前後で感じたギャップを教えてください

- 先輩職員との距離が近くてびっくりしました(皆さんフレンドリーに接して下さいます)。(1年目)
- 役所の人は皆生真面目で堅いと思っていたが、入ってみると良い意味で皆さん人間味があった。(1年目)
- 職場の様子について、入省前は仕事の話だけ飛び交ってバタバタしているイメージがありましたが、今の部署では笑い話も飛び交いながら、メリハリをつけて皆さん仕事をしており、忙しいときもありますが、和やかな時間も多いためにギャップを感じました。(2年目)
- (想像していたより)細かなところまで決まり事やルールが多いことです。(2年目)
- 一般職1年目から政策立案の中心的役割を担うような業務も多く携わることができたこと。(3年目)
- もっとお堅く厳しい人が多いと思っていたが、やさしく穏やかな人が多かったことです。(3年目)

Q7 周りの職員や職場の雰囲気を教えてください

- 係の上司をはじめ、課の職員全体に共通して、分からないことがあれば聞きやすい雰囲気がある。(2年目)
- とてもやさしく仕事に熱心で、やるときはやる、楽しむときは楽しむを徹底している。(2年目)
- 若手を大事にしようという雰囲気があるので、分からないことを聞く丁寧な教えてもらえます。(2年目)
- 学校の先生みたいな雰囲気の方が多く、(実際に学校の先生が出向で来ている場合も多い)。(3年目)
- 日中は慌ただしくなることが多いです。1日があっという間に過ぎていくと思います。(3年目)

Q8 仕事をする上で心がけていることを教えてください

- 法律に則って動いておりますので、常に何の法律で定義されているのかを意識して行動しています。(1年目)
- 自分で仕事を止めない、とりあえず相談することです。(1年目)
- 取りまとめ業務をすることが多く、省内の職員が働きやすい環境になるように心がけています。(2年目)
- 円滑なコミュニケーション。素早く業務を行う時と、丁寧に業務を行う時のメリハリを付けること。(2年目)
- 迷ったらすぐ相談。迷っている時間をもったいない。(2年目)
- 違う立場の人の考えに最大限配慮しつつ、常に落としどころを考えながら全体最適を狙うこと。(2年目)
- 健康でいることです。(3年目)
- 常に周りを気にすることにより、周囲からの情報収集、周囲との連携を迅速に進められるよう努めています。(3年目)
- みんなが気持ちよく仕事ができるように意識することです。(3年目)

Q9 最後にこれだけは伝えておきたいということをお願いいたします

- 休みもちゃんと取れます(笑) 年末年始は12連休でした!(1年目)
- しんどい時もありますが、リフレッシュする時はリフレッシュできます!(1年目)
- 教育・文化・スポーツ・科学技術といった文部科学省の所掌分野について、疑問や意見がある人はぜひ文部科学省の門戸を叩いてほしいです。より良い日本のために一緒にがんばりませんか!(2年目)
- 同期や先輩との繋がりを大切にしてください。(3年目)

※(入省年数)

役職段階別	役職段階を問わない
係員級	個人情報保護に関する研修
	再就職コンプライアンス研修
	国家公務員倫理に関する職員研修
	情報セキュリティ研修
	総合的なハラスメント防止研修
	国立大学法人等制度研修
	会計研修
	国際業務能力啓発研修(ビジネス英語等)
	メンタルヘルス研修
	1on1ミーティング(コミュニケーション充実)研修
	情報システム統一研修
	自己啓発研修(放送大学)
	ワークライフバランス研修(子育て・介護世代対象)
	LGBT研修
係長級	
課長補佐級	
管理職	

※他省庁主催の研修も含まれます。また、内容は令和5年度のものであり、今後変更される場合があります。

職員教育行政・学校教育等実務研修

若手職員が学校や教育委員会、国立大学法人等において実務に従事することにより、地方教育行政や学校教育、社会教育等の実際についての見識と理解を深めるとともに、その経験をその後における文部科学省での施策の企画立案、実施等に活かし、国や地方における教育行政の充実に資することを目的とする研修です。研修期間は2週間~1ヶ月程度の短期と1年間の長期があります。

研修 受講者の声 / 清水 結衣 Shimizu Yui
 研修先 | 国立大学法人 | 令和3年入省(行政)

大臣官房人事課計画調整班研修係

本研修を通じ、現場との対話を重ね、政策目的と現場の乖離を多角的に検証する重要性を学びました。大学の研究等分野における、デジタル人材養成への取組や検討状況の把握、18歳人口減少下における、学生への学びに対する魅力発信、教育の質担保制度に関わる意見交換の場を経て、より効果的な政策等を打ち出すための観点、視野拡大に資する経験を積むことができました。今後、培った知見を、制度等設計や改善に寄与する傾聴力、周知戦略に裏打ちされた説明力等へつなげ、教育行政の更なる充実に向け、より一層貢献したいと思っております。

メクスボ (MEXT SUPPORT:文部科学省若手育成サポートシステム)

入省1~3年目職員が安心して円滑に職務に臨めるよう、資質能力の向上等の支援を目的とした勉強会で、対象職員が参加しやすい時期に開催されています。企画・実施は、若手職員有志による企画委員会と大臣官房人事課が連携して行っています。定時後に任意参加で開催しており、テーマは「国会」「法律」「予算」「税制」などの実務的な内容や、文部科学省が推進している政策等について、講義とワークショップを組み合わせた形式で実施されています。

研修 受講者の声 / 虻川 貴徳 Abukawa Takanori
 令和4年入省(行政)

大臣官房総務課審議班審議第二係

メクスボは、それぞれのテーマについてその分野に精通している職員が講義をさせていただきます。中でも「法令」をテーマにした講義は、法令の基礎知識からやや応用的な知識を実務を交えて学ぶことができます。行政活動は法令を根拠にしていなければならない、役人として法令知識は知っておく必要があり、また、現在従事している業務の意味等を改めて認識する機会にもなり、非常に有益な内容でした。職務にあたってると実務的な疑問は多く出てきますが、それらの疑問も解消でき、事前に質問を送る機会もあるので質問をしやすい研修です。

業務内容について

Q 総合職と一般職の職員の仕事内容は、どのように違うのですか？

A 一般的には、総合職は主に重要法案の作成に関わる業務や政策の企画立案などを担当し、一般職はその企画内容を実現する事業の執行や管理業務などの事務処理（総務、会計等）を担当するほか、技術系はその専門性を活かす業務に携わる機会があります。ただし、文部科学省では、総合職と一般職が同じチームで共通の課題に対応したり、適材適所の観点から個人の能力や人事評価等に基づき試験区分によらない人事配置を行うこともあるため、仕事内容と試験区分の境界線が重なることもあるので、両者を完全に色分けして整理することは難しい場合もあります。いずれにしても、総合職、一般職ともに、適応力、解決力、コミュニケーション能力などが求められます。

Q 配属先はどのように決まるのですか？希望はどれくらい反映されますか？

A 人事配置は、組織における総合的な人事戦略に基づいて決定されます。一般職は、文部科学行政の各分野の基幹的な実務を担う職員として、また関係独立行政法人等の幹部職員として活躍することが期待されているため、キャリア形成の中で、現場も含めた省内外で多様な経験を積むことにより、行政官としての広い視野と高い事務能力、専門性、マネジメント能力を身に付けてほしいと考えています。組織の考えと個人の希望を常に両立させることは難しい面もありますが、実際の人事配置の検討においては、個々の職員の能力、適性、経験のほか、本人の希望等を踏まえ、各職員の職業的成長を促し支援する思いを大切にしています。

Q 文部科学省以外の機関で働く機会がありますか？

A キャリアパスの過程で他府省庁への出向、地方自治体・国立大学法人・独立行政法人・国際機関等へ出向する機会があります。各機関への出向を通じ、ものの見方や考え方の幅を広げ、現場を通じて考え方を深める大変貴重な経験となります。

採用について

Q 文部科学省では、どんな人材を求めているのですか？

A 文部科学省では「教育」「科学技術・学術」「スポーツ」「文化」といった幅広い分野を担当しています。これらは、「人材の育成」の観点から、いずれも極めて重要な行政分野であり、未来の動向を見据えた総合的な政策の企画・立案及びその展開が強く求められています。「人」を育て、「知恵」を生み出し、「未来」の基盤を創っていくという役割を担う文部科学省では、国づくりを支える人づくりに興味があり、将来のビジョンのための新しい感覚、柔軟な思考力とそれを現実に結びつけるのに必要な、困難な課題にも粘り強く立ち向かう気概や想いを持った方々を求めています。

Q 事務系行政官と技術系行政官の職務上の違いはありますか？

A 試験区分に応じて、事務系採用、技術系採用とありますが、事務系行政官・技術系行政官の区別はありません。当然、高度な専門的知識を必要とする業務の場合は、事務系と技術系の背景を考慮しますが、入省後は「適材適所」で配置が決まります。これからの「変革の時代」を乗り切っていくためには、自分の専攻分野にとらわれず、幅広い視野を持って、新しい世界にどんどん挑戦していく積極性が求められます。

Q 説明会情報はどこに掲載されていますか？

A 文部科学省一般職事務系・技術系採用ホームページに掲載しております。また、X(旧 Twitter)・Facebookでも随時更新情報を投稿しておりますので、併せてご確認ください。

● 試算区分別

(単位:人)

	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度 (内定者数)
行政	17 (7)	23 (12)	24 (12)	23 (15)	32 (17)	22 (9)
デジタル・電気・電子		1			1	1 (1)
機械	2					
土木			1			
建築	1	2 (1)			1	
物理	3 (2)	1	1			2 (1)
化学	1 (1)	4 (1)	2 (2)	8 (4)	4 (2)	1 (1)
農学			2 (1)		1 (1)	1 (1)
農業農村工学						
林学						1 (1)
合計	24 (10)	31 (14)	30 (15)	31 (19)	39 (20)	28 (14)

※ () 内は、女性数で内数

※技術系は「行政」以外の理工系・農業系の試験区分の受験者を募集対象とし、試験区分にとらわれない採用を実施。
※令和3年度まで実施されていた電気・電子・情報区分は令和4年度以降のデジタル・電気・電子区分と同項目で計上。

● 学部卒・大学院卒の別

(単位:人)

	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度 (内定者数)
学部卒	19 (7)	26 (12)	25 (13)	28 (18)	34 (18)	26 (13)
大学院卒	5 (3)	5 (2)	5 (2)	3 (1)	5 (2)	2 (1)

※ () 内は、女性数で内数

※令和6年度内定者については、卒業見込者を含む。

文部科学省の採用情報について

文部科学省HPにて、説明会情報や職員訪問等、採用に関わる情報を随時更新しておりますのでご覧ください。

文部科学省 採用

で検索してください



説明会情報についてはSNSでも発信しております。

X (旧 Twitter) アカウント @mext_recruit



Facebook アカウント @mext.recruit

